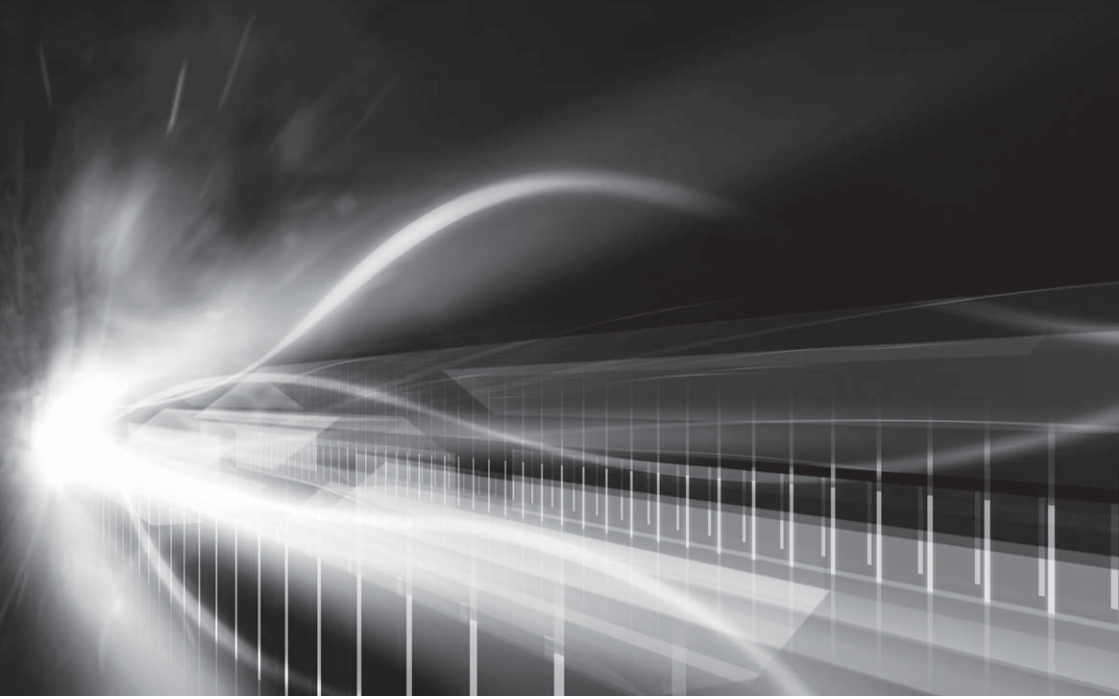


取扱書・保証書

よくお読みになってご使用ください。

C+walk T

TOYOTA

本書の見方 3
イラスト目次 4

1 取扱書

1-1. 安全・安心のために
安全に使用するために 10
警報ブザーと警告表示 15
1-2. 装備の使いかた
キーの登録 17
電源の ON/OFF 23
状態表示パネルの見かた 24
装備の使いかた 26
1-3. 乗車・降車するときは
乗り降りの前に 29
乗車するとき 31
降車するとき 33
1-4. 走行するときは
走行の前に 34
走行中の注意 46
前進のしかた 49
後退のしかた 50
停止のしかた 51
駐車のしかた 52
1-5. 充電するときは
バッテリーの取扱い 53
バッテリーの取付け / 取外し 55
バッテリーの充電方法 57
1-6. こんなときは
走行練習するとき 62
手押しで移動するとき 64
お手入れするとき 66
保管するとき 67
運搬するとき 68
廃棄するとき 70
困ったときの対処 71
1-7. 緊急事態を回避するときは
転倒したとき 78
踏切で動けなくなったとき 79
横断歩道で動けなくなったとき 80

2 点検

2-1. 点検
点検の必要性 82
点検項目 83
2-2. 使用前点検
使用前点検のしかた 86
使用前点検の記録 96
2-3. 定期点検
定期点検のしかた 97
定期点検の記録 102

3 仕様情報

3. 仕様情報
寸法 104
諸元 105

4 さくいん

4. さくいん
五十音順さくいん.....108

5 保証

5. 保証
保証について.....114
保証書.....115
保証登録書.....120

本書の見方

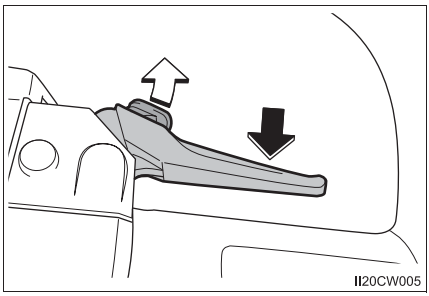
⚠ 警告 お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。

⚠ 注意 お守りいただかないと、モビリティや装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。

1 2 3… 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。

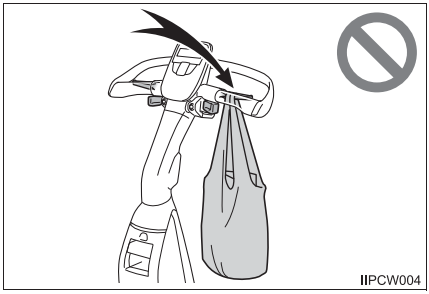
➡ 押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。

⇨ フタが開くなど、操作後の作動を示しています。



➢ 説明の対象となるもの・場所を示しています。

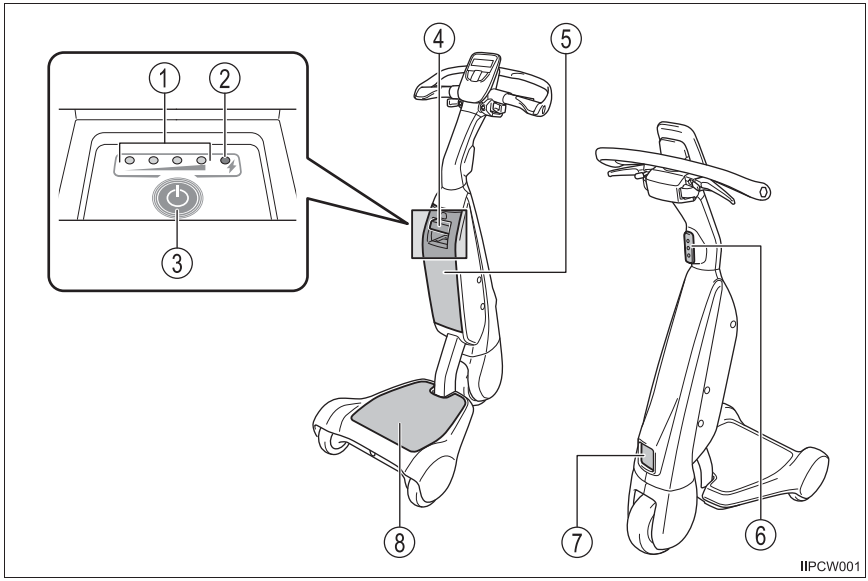
⃠ “してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味です。



知識 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト目次

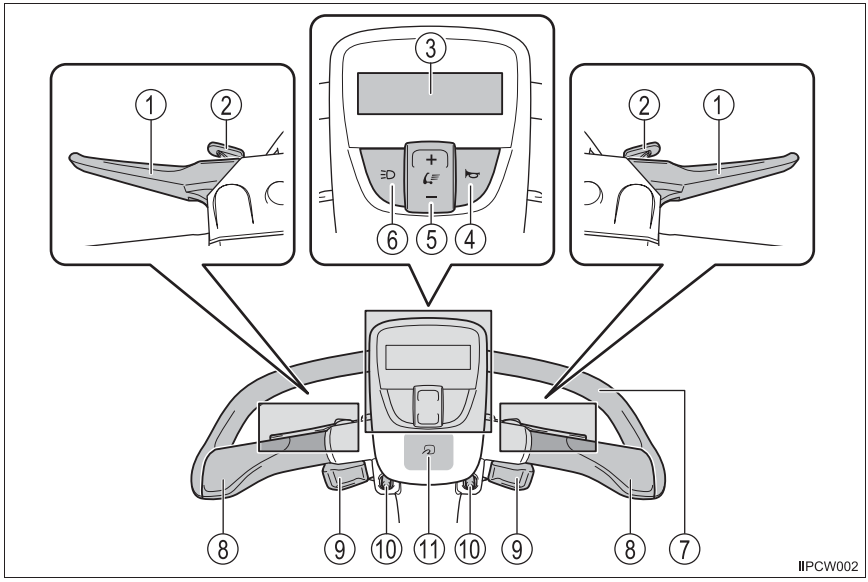
■外観



① 電池残量表示 LED . . . . . P. 35
② 充電状態表示 LED . . . . . P. 59
③ 電源スイッチ . . . . . P. 23
④ バッテリーレバー . . . . . P. 55
⑤ バッテリー . . . . . P. 57
⑥ 前照灯 . . . . . P. 26
⑦ 周辺検知センサー★ . . . . . P. 26
⑧ ステップ . . . . . P. 31

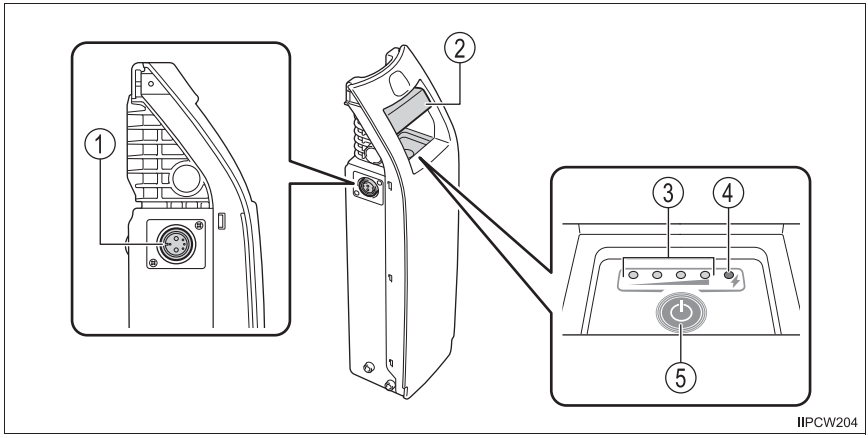
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ハンドル部



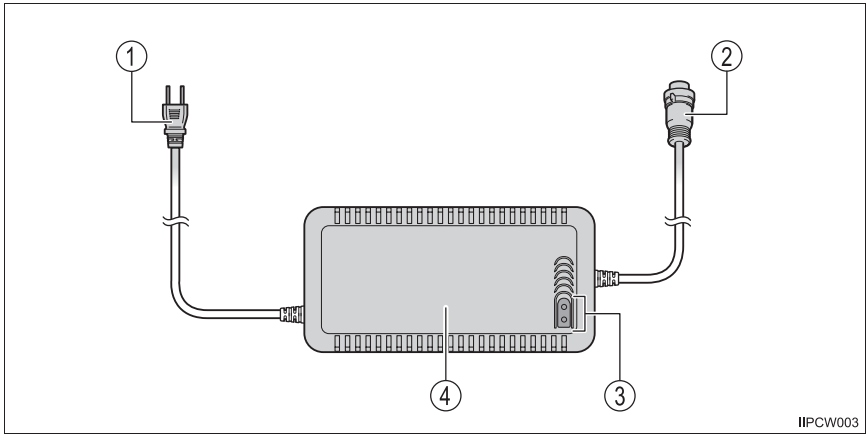
① ブレーキレバー . . . . . P. 51
② パーキングブレーキレバー . . . . . P. 52
③ 状態表示パネル . . . . . P. 24
④ 警鐘スイッチ . . . . . P. 26
⑤ 速度切りかえスイッチ . . . . . P. 36
⑥ 前照灯スイッチ . . . . . P. 26
⑦ ハンドルプロテクター . . . . . P. 68
⑧ ハンドル . . . . . P. 31, 34
⑨ アクセルレバー . . . . . P. 49
⑩ バックボタン . . . . . P. 50
⑪ キー認証エリア . . . . . P. 17, 23

■バッテリー



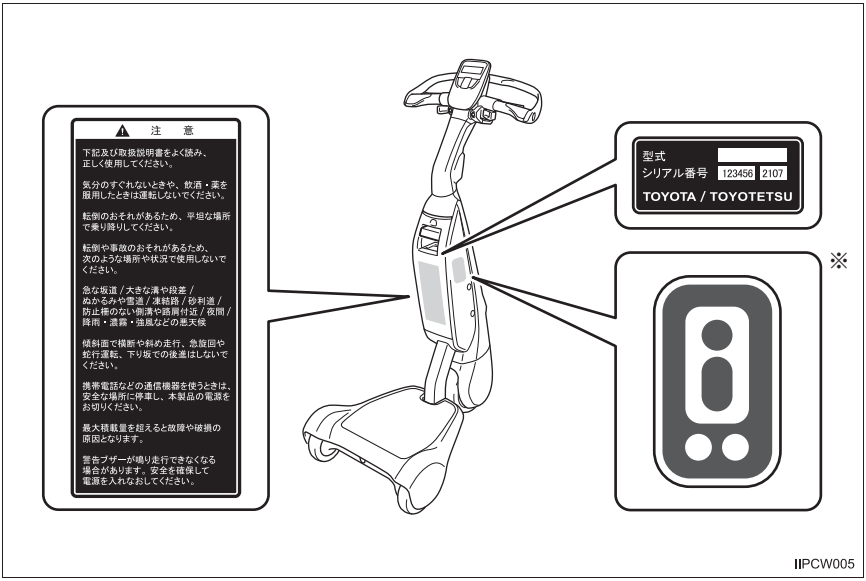
① バッテリー側充電コネクター . . . . . P. 59
② バッテリーレバー . . . . . P. 55
③ 電池残量表示 LED . . . . . P. 35
④ 充電状態表示 LED . . . . . P. 59
⑤ 電源スイッチ . . . . . P. 23

■充電器



① プラグ . . . . . P. 59
② 充電コネクター . . . . . P. 59
③ インジケーター . . . . . P. 59
④ 充電器 . . . . . P. 59

■ラベル



※ 移動用小型車標識

⚠注意

●ラベルを剥がさないでください。

モビリティおよびバッテリーには、走行や取り扱いに関する注意事項が記載されたラベルが貼られています。本書の内容と併せて参照してください。

移動用小型車標識は、法令で貼付けが定められているため、剥がしたり上から別のシールを貼るなどしないでください。剥がれたら使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

取扱書 1

1-1. 安全・安心のために
- 安全に使用するために……10
- 警報ブザーと警告表示……15

1-2. 装備の使いかた
- キーの登録……17
- 電源の ON/OFF……23
- 状態表示パネルの見かた……24
- 装備の使いかた……26

1-3. 乗車・降車するときは
- 乗り降りの前に……29
- 乗車するとき……31
- 降車するとき……33

1-4. 走行するときは
- 走行の前に……34
- 走行中の注意……46
- 前進のしかた……49
- 後退のしかた……50
- 停止のしかた……51
- 駐車のしかた……52

1-5. 充電するときは
- バッテリーの取扱い……53
- バッテリーの取付け / 取外し……55
- バッテリーの充電方法……57

1-6. こんなときは
- 走行練習するとき……62
- 手押しで移動するとき……64
- お手入れするとき……66
- 保管するとき……67
- 運搬するとき……68
- 廃棄するとき……70
- 困ったときの対処……71

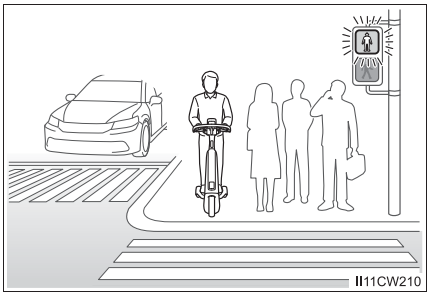
1-7. 緊急事態を回避するときは
- 転倒したとき……78
- 踏切で動けなくなったとき……79
- 横断歩道で動けなくなったとき……80

安全に使用するために

モビリティを安全にご使用いただくために、次のことをお守りください。

はじめに

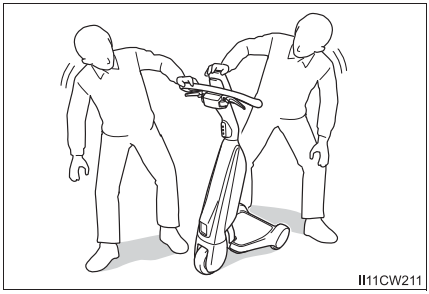
モビリティ「C+walk T」は、道路交通法では移動用小型車になり、歩行者と同じ扱いになります。運転免許は必要ありませんが、交通ルールやマナーを守り、安全な走行を心がけてください。



使用前の点検

モビリティを使用する前に必ず点検し、異常や破損がないか確認してください。異常や破損がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

点検方法については、P. 86 を参照してください。



安全上のご注意

⚠ 警告

●本体やバッテリー、充電器に故障や異常があるときは使用しないでください。

感電、発火、ケガや事故の原因となることがあります。

●充電コードやプラグに傷や変形があるときは使用しないでください。

感電、発火の原因となることがあります。

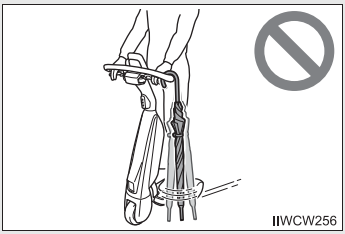
●火気の近くに置かないでください。

熱による破損や故障の原因となります。

●操作パネルに磁気ブレスレットなど磁気を有する物を近づけたり置いたりしないでください。状態表示パネル画面の乱れ、故障の原因となることがあります。

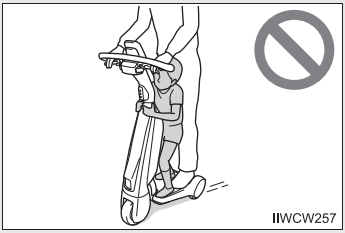
●ハンドルに傘や杖をかけないでください。

転倒や破損の原因となることがあります。


IIWCW256

●このモビリティは 1 人乗りです。お子さまと一緒に乗るなど、2 人以上で乗車しないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。

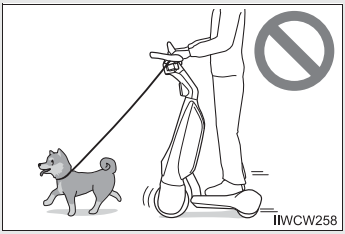

IIWCW257

⚠ 警告

●犬などのペットを引いて走行しないでください。また、リードを手に持ったり、モビリティにつないだりしないでください。

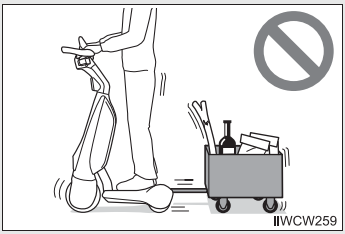
また、ペットを抱きかかえたり、膝や足もとに乗せたりして走行しないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。



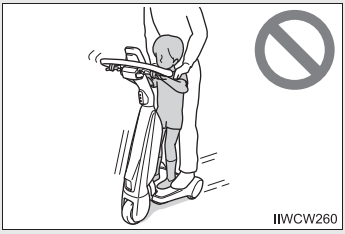
●荷物のけん引をしないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。



●モビリティは遊具ではありません。子供に運転させないでください。

ケガや事故の原因となることがあります。

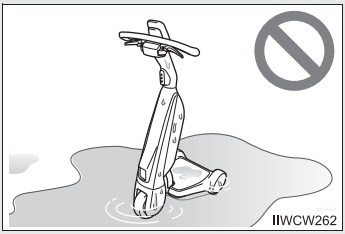


●モビリティを他の人に操作･運転させないでください。

他の人に操作させるときは、十分な説明や適切な指示が必要です。

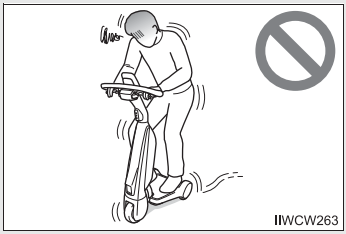
●台風や洪水でモビリティが水につかった場合は、使用しないでください。

感電や発火のおそれがあります。電源スイッチを操作せず、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。



⚠ 警告

●次のときは、モビリティを使用しないでください。



・体調がすぐれないとき
・正しい運転姿勢が取れないようなけがをしているとき
・飲酒したとき
・眠気をもよおす薬を飲んだとき
・疲れを感じたとき

注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。

●乗員の体重と着衣および荷物の合計が 100kg をこえる場合は、使用しないでください。

バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。

●身長が 140cm 未満の方、または 185cm をこえる方は、使用しないでください。

正しい運転姿勢がとれず、運転操作に支障が出ることがあります。

●モビリティの取り扱いや走行に慣れるまで歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

●歩行者用標識や信号を守ってください。

●横断歩道では一時停止して安全を確認してください。

植込み型心臓ペースメーカーなどをご使用の方へ

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 警告

●充電時には充電器や充電コードに植込み部を近づけないでください。

充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

修理・改造について

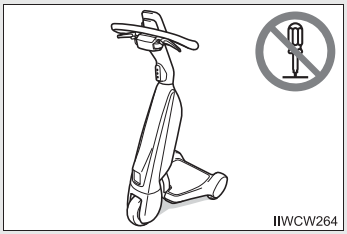
ご自身でモビリティを修理・改造しないでください。ご自身で修理・改造された場合は、保証を得られなくなります。

使用者が扱うヒューズの交換はありません。修理・改造が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

⚠ 警告

●ご自身で修理や改造をしないでください。

故障の原因になったり、思わぬ事故に繋がり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡に繋がる恐れがあります。



⚠ 注意

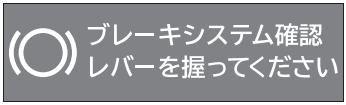
●最大寸法は、法令で定められています。

移動用小型車として、公道走行可能な最大寸法（全長 1200 ㎜、全幅 700 ㎜、全高 1200 ㎜）が法令で定められています。

改造などにより定められている最大寸法を超えるようなものを付けないでください。

警報ブザーと警告表示

モビリティには下記の警告ブザーが装備されています。

警告名	内容	対処
バッテリー残量警告ブザー 	バッテリー残量が少なくなったり、バッテリーの電圧が登坂走行などで一時的に低下した時に警告ブザーが鳴ります。	早めに充電してください。
バッテリー保護警告ブザー 	登板走行時に一時的に電圧低下した時、または、降板走行時の回生エネルギーによって電圧が上昇した時などに警告ブザーが鳴ります。	いったん走行を停止し、ブザーが消えた場合は走行を再開してください。
走行前警告ブザー	認証前からアクセルレバーまたはバックボタンが押されていると警告ブザーが鳴ります。	いったんアクセルレバーまたはバックボタンを離してください。
ブレーキ故障警告ブザー 	一定時間ブレーキレバーを握らない時、警告ブザーが鳴ります。	レバーを握ってください。
電源切り忘れ警告ブザー 	停止中に約 3 分間操作がないと約 10 秒間警告ブザーが鳴ります。その後、操作がない場合は、同じ間隔で繰り返し警告ブザーが鳴ります。	モビリティを使用しない場合は、電源を切ってください。使用する場合は、前照灯、警鐘機のスイッチを押してください。
急斜面警告ブザー★ 	急な斜面を検知すると警告ブザーがなります。	安全に注意して一番低い速度設定(2km/h)に変更して平地へ移動して下さい。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告名	内容	対処
斜面速度抑制ブザー★ 	斜度（約 6° 以上）に対して走行速度が速い（3.5km/h 以上）と検知した時、速度を自動で減速すると共に警告ブザーが鳴ります。	周囲の安全を確認して走行してください。検知中は、ブザー音が消えません。
障害物検知ブザー★ 	周辺検知センサーが前方にある人やものなどの障害物を検知したとき警告ブザーが鳴ります。	周囲の安全を確認して走行してください。検知中は、ブザー音が消えません。
後退時警告ブザー	後退していることを知らせるため、後退時は断続的に警告ブザーが鳴ります。	周囲の安全を確認して走行してください。後退中は、ブザー音が消えません。

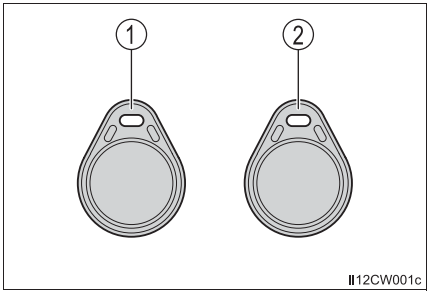
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

キーの登録

モビリティには、次のキーが付属しています。初めて使用するときは、マスターキーを使用してサブキーをモビリティに登録してください。

キーについて

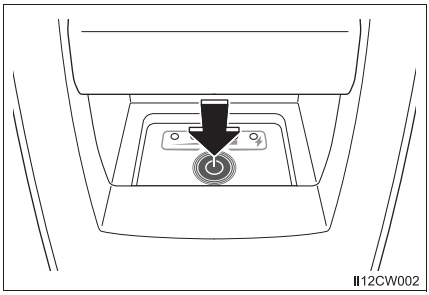
① マスターキー（赤色）
② サブキー（黒色）



サブキーを登録する

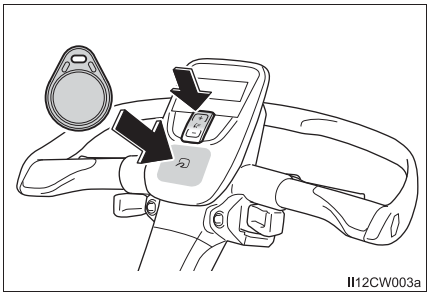
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

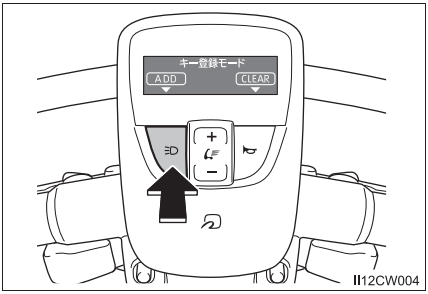


2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの＋側を押す

キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。

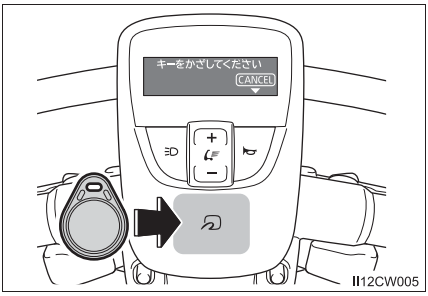


3 [ADD]（前照灯スイッチ）を押す



4 登録したいサブキーで認証エリアにふれる

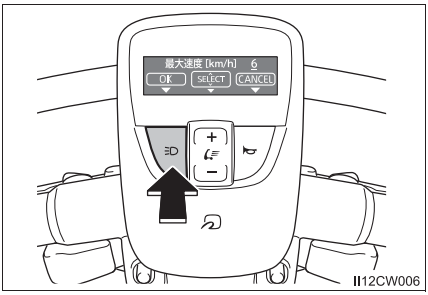
登録操作をキャンセルしたい場合は、[CANCEL]（警鐘スイッチ）を押してください。



5 サブキーで設定できる最大速度を選択し、[OK]（前照灯スイッチ）を押す

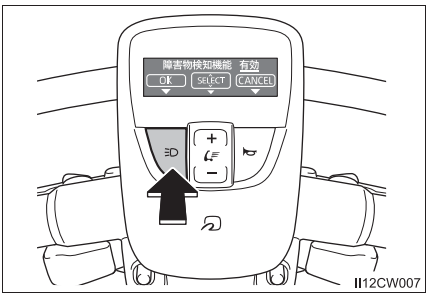
最大速度は、速度切りかえスイッチの＋ 側または－側を押して選択してください。

4, 6km/h から選択できます。



6 周辺検知センサー装着車のみ：障害物検知機能の有効／無効を選択し、[OK]（前照灯スイッチ）を押す

障害物検知機能の有効／無効は、速度切りかえスイッチの＋側または－側を押して選択してください。



状態表示パネルに「登録しました」が表示され、キーの登録が完了します。引き続きサブキーを登録・解除する場合は、[TOP]（警鐘スイッチ）を押してください。

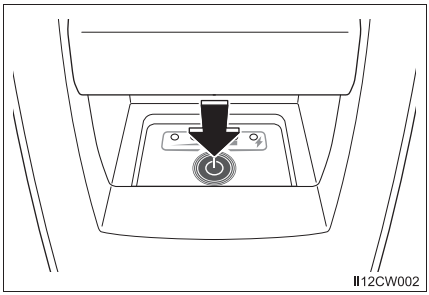
キーの登録を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

キーの登録を解除する

■ 登録されているすべてのサブキーを解除する

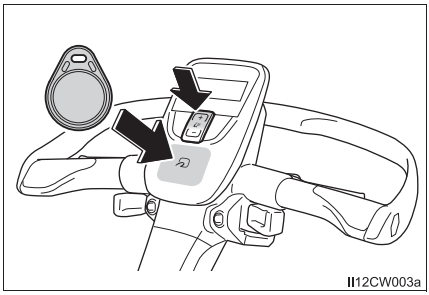
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

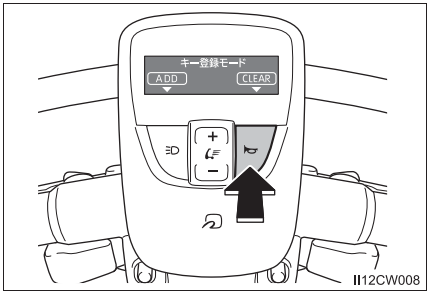


2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの＋側を押す

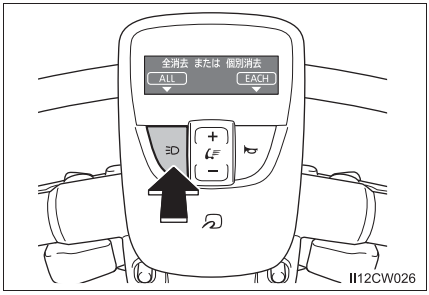
キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。



3 [CLEAR]（警鐘スイッチ）を押す

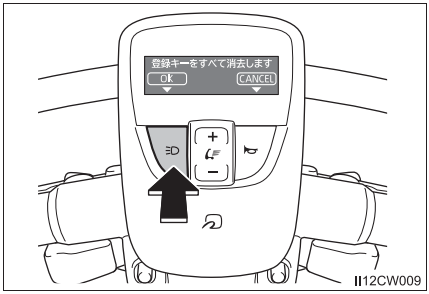


4 [ALL]（前照灯スイッチ）を押す



5 [OK]（前照灯スイッチ）を押す

中止する場合は [CANCEL]（警鐘スイッチ）を押してください。



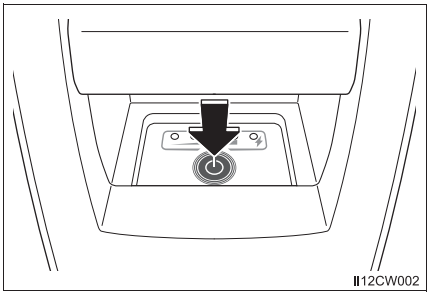
状態表示パネルに「全消去しました」が表示され、登録されているサブキーがすべて解除されます。引き続きサブキーを登録する場合は、[TOP]（警鐘スイッチ）を押してください。

キーの解除を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

■ 登録されているサブキーを個別に解除する

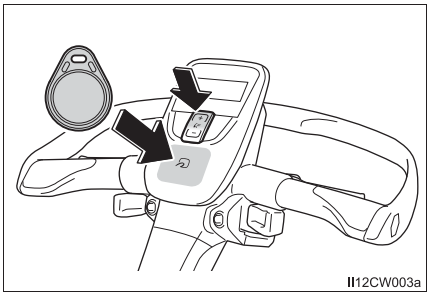
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。

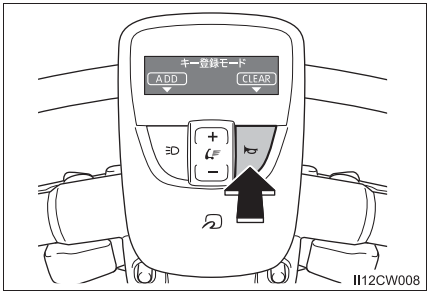


2 マスターキーで認証エリアにふれ、すぐに速度切りかえスイッチの + 側を押す

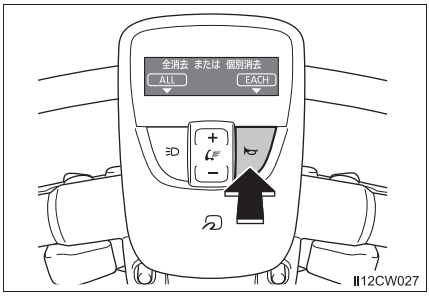
キー登録画面が表示されます。画面が表示されないときは、電源スイッチを OFF にしてもう一度やり直してください。



3 [CLEAR]（警鐘スイッチ）を押す



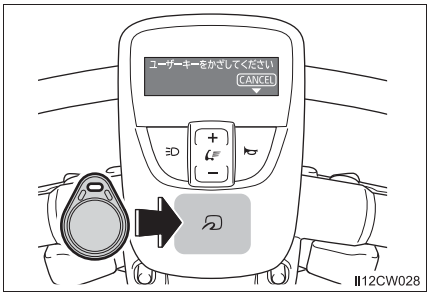
4 [EACH]（警鐘スイッチ）を押す



5 登録を解除したいサブキーでキー認証エリアにふれる

中止する場合は [CANCEL]（警鐘スイッチ）を押してください。

マスターキーや登録されていないサブキーでふれると、エラーメッセージが表示されます。そのときは [CANCEL]（警鐘スイッチ）を押してもう一度登録されているサブキーでふれてください。



状態表示パネルに「個別消去しました」が表示され、キーの解除が完了します。引き続きサブキーを登録・解除する場合は、[TOP]（警鐘スイッチ）を押してください。

キーの解除を終了する場合は、いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。

知識

■登録できるキーの個数

最大 50 個のキーを登録することができます。（マスターキー含む）

キーの追加が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

■サブキーを紛失したとき

- 盗難を防ぐため、必要に応じて、マスターキーを使用して登録されているサブキーをすべて解除してください。
- お買い上げ販売店または取り扱い販売店で新しいサブキーを購入することができます。

■キーの取り扱いについて

使用中は常に携帯してください。

キーを紛失すると、電源を OFF した後、モビリティの認証ができず、走行できなくなります。

⚠ 注意

■キーの故障を防ぐために

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしないでください。
- 分解しないでください。

■モビリティの盗難を防ぐために

キーはモビリティと別の場所で保管してください。

■マスターキーを紛失したとき

マスターキーを紛失した状態で放置すると、モビリティが盗難されたり、不正利用されたりするおそれがあります。マスターキーを紛失した場合は、ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

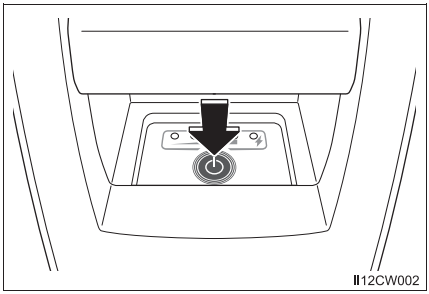
マスターキーの紛失を防ぐため、通常使用時はサブキーの使用をおすすめします。

電源の ON/OFF

電源を入れる

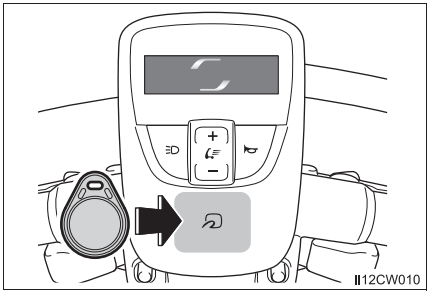
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。起動音が鳴り、状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。



2 キーで認証エリアにふれる

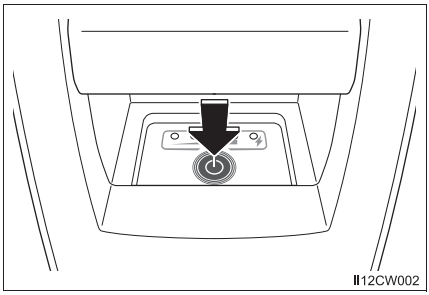
キーが認証され、モビリティが走行できるようになります。



電源を切る

1 電源スイッチを OFF にする

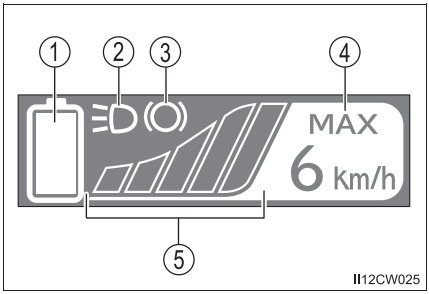
電源スイッチを約 1 秒押し続け、状態表示パネルの表示が消えたことを確認してください。



状態表示パネルの見かた

ディスプレイの表示

■ 走行時の表示



① バッテリー残量表示

② 前照灯インジケーター

前照灯が ON のときに表示されます。（→ P. 26）

③ ブレーキインジケーター

手動ブレーキがかかっているときに表示されます。（→ P. 51）

④ 最大速度（→ P. 36）

⑤ 速度メーター

■ オドメーター・トリップメーター表示

モビリティが停止している状態で速度切りかえスイッチの＋側を押し続けると、オドメーター・トリップメーター表示に切りかわります。

表示中にアクセルレバーを操作するか、再度速度切りかえスイッチの ＋ 側を押し続けると、前の表示にもどります。

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。速度切りかえスイッチの＋側を短く押すたびに、トリップ A・トリップ B の表示が切りかわります。

リセットするには、リセットしたい方のトリップメーターを表示中に、速度切りかえスイッチのー側をリセットされるまで押し続けます。

エラーコード表示

モビリティに異常が発生すると、エラーコードが表示されます。次の表に従って対処してください。

エラーコード	対処方法
E00 ～ E19 E21 ～ E90	いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。 再度同じエラーコードが表示される場合は、モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
E20	バッテリーの残量を確認してください。残量がない場合はただちに充電してください。（→ P. 59）

⚠ 注意

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合があります。

装備の使いかた

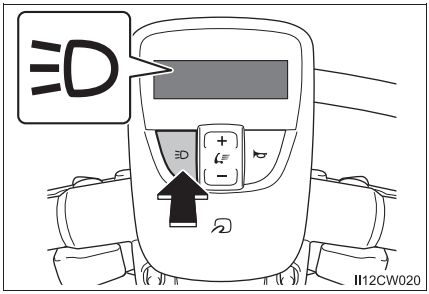
前照灯の使い方

前照灯スイッチを押す

押すたびに、前照灯の ON ／ OFF が切りかわります。

前照灯が ON のとき、状態表示パネルに前照灯インジケーターが表示されます。

電源スイッチを ON にしたとき、前照灯は常に ON になります。通常は前照灯が ON のまま使用してください。

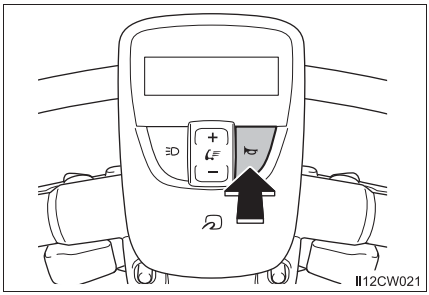


警鐘器の使い方

警鐘スイッチを押す

スイッチを押しているあいだ、警告音が鳴ります。

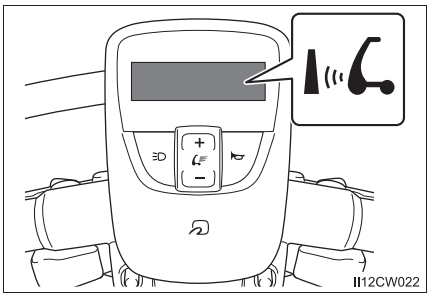
周囲の歩行者などにモビリティの存在を示すときに使用してください。



障害物検知機能★

周辺検知センサーが前方にある人やものなどの障害物を検知し、速度が約 2km/h まで減速する機能です。検知した障害物がなくなると、自動で速度が回復します。

周辺検知センサーが障害物を検知すると、ブザーが鳴り状態表示パネルに警告マークが表示され、モビリティが減速します。ハンドルを操作して障害物を回避してください。



★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■障害物検知機能★の作動条件

●認証に使用したキーに障害物検知機能が設定されているとき（→ P. 17）

●周辺検知センサーが前方約 3.0m 以内にある人やものなどの障害物を検知したとき（ブザーが鳴り状態表示パネルに警告マークが表示されます。）

●障害物を検知したとき、走行速度が3㎞/h以上の場合は減速機能が作動します。走行速度が 2 ㎞ /h 以下の場合は、減速機能は作動しません。

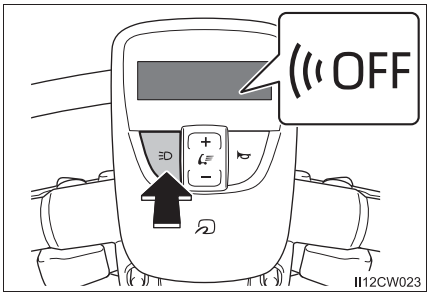
■ 障害物検知機能を一時的に OFF にする

前照灯スイッチを押し続ける

長い横断歩道や踏切を通過する際にご使用ください。

状態表示パネルにマークが表示され、障害物検知機能が一時的に OFF になります。マークが表示されたら、スイッチから手を離してください。

もう一度前照灯スイッチを押し続けるとマークの表示が消え、障害物検知機能は ON になります。また約 1 分が経過すると、障害物検知機能は自動で ON になります。



⚠ 警告

●障害物検知機能を過信しないでください。

障害物の手前で停止したり、障害物を自動で回避したりする機能ではありません。機能を過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

●障害物の状態や、モビリティの状況によっては、機能が作動しないことがあります。

●周辺検知センサーに水滴や汚れが付いていたり、逆光などで強い光がセンサーに当たったりしている場合（太陽に向かって走行したり、冬場で太陽の位置が低かったりする場合）、障害物がなくても機能が作動することがあります。

この場合は一時的に障害物検知機能を OFF にしてください。また、障害物検知機能の使用を中止する場合は、キーの設定を「障害物検知機能：無効」に変更してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

旋回時速度抑制機能

ハンドルの操舵角度に応じて速度を自動減速する機能です。

急斜面検知機能★

4°以上の斜度に対して走行速度が速い（3.5㎞/h以上）と検知した時、速度を自動で減速すると共に警告ブザーが鳴ります。また6°以上の斜度に対しては急斜面危険の表示と共に警告ブザーが鳴ります。（→P. 15）

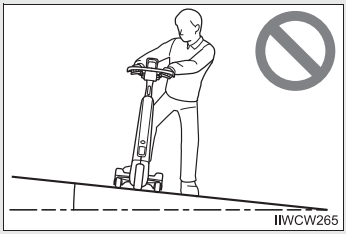
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

乗り降りの前に

⚠ 警告

●できるだけ平坦で安定した場所で乗降してください。

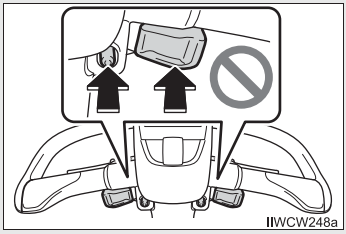
傾斜地や不安定な場所で乗降すると、意図せずモビリティが動き出したり、バランスを崩したりするおそれがあります。



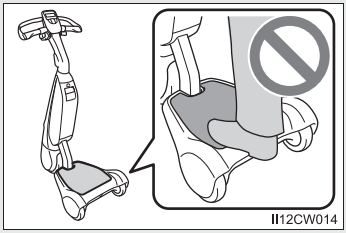
●斜面では、より転倒しやすくなるため、乗降しないでください。

●左右両方のハンドルをしっかり握って乗降してください。

このとき、アクセルレバーやバックボタンにふれないでください。モビリティが急に動くおそれがあります。



●ステップに片足を置くときは、かかとがステップからはみ出さないようにしてください。
かかとがステップ後部にはみ出した状態で乗車すると、バランスを崩し転倒するおそれがあります。

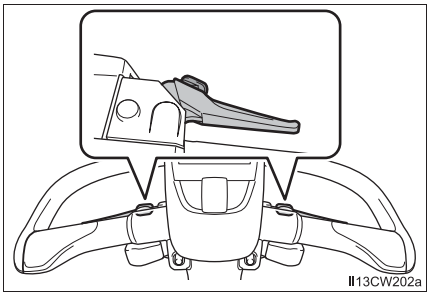


●乗車中は普段より目線が高くなるため、頭上や足元の障害物にぶつからないよう特に注意してください。

●降車時は、モビリティが完全に停止していることを確認し、パーキングブレーキをかけて電源スイッチを OFF にしてから降車してください。

乗車前の確認

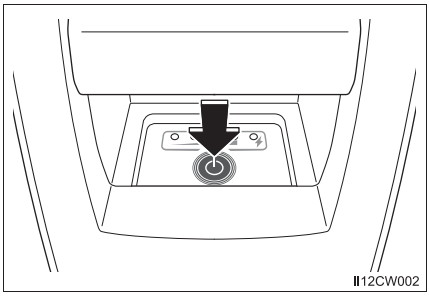
左右のパーキングブレーキがかかっている事を確認する



乗車するとき

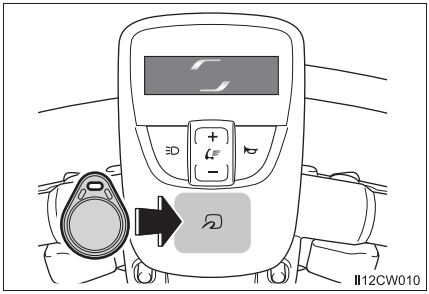
1 電源スイッチを ON にする

電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。起動音が鳴り、状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。



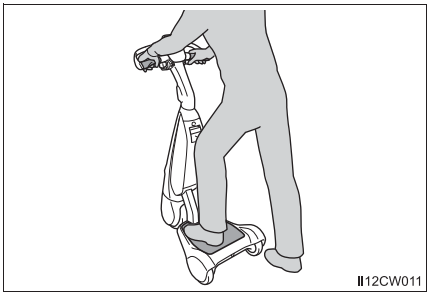
2 キーで認証エリアに触れる

キーが認証され、モビリティが走行できるようになります。

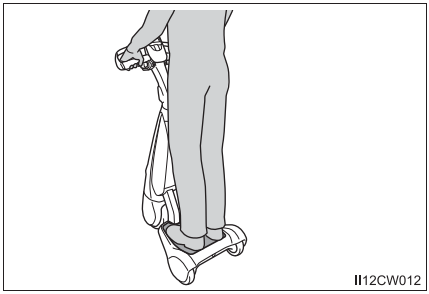


3 状態表示パネルにエラーコードが表示されていないことを確認する（→ P. 25）

4 左右両方のハンドルをしっかり握り、ステップに片足を乗せる



5 ステップに乗せた足へ体重を移動させ、ゆっくりともう片方の足もステップに乗せる



知識

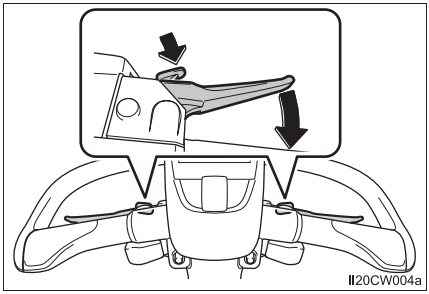
■認証操作のセキュリティ機能

電源スイッチを ON にしたあと、約 1 分以内にキーが認証されなかった場合、自動で電源スイッチが OFF になります。

降車するとき

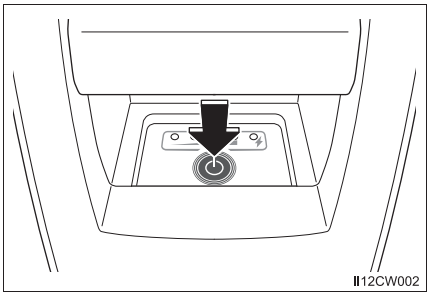
1 アクセルレバーまたはバックボタンをもどし、モビリティを完全に停止させる

2 ブレーキレバーをしっかり握り、左右のパーキングブレーキをかける（→ P. 52）



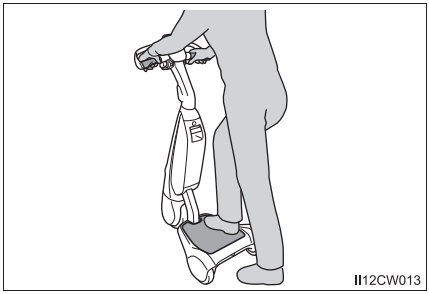
3 電源スイッチを OFF にする

電源スイッチを約 1 秒押し続け、状態表示パネルの表示が消えたことを確認してください。



4 左右両方のハンドルをしっかりと握ったまま、片足ずつ降車する

完全に降車するまで、ハンドルから手を離さないでください。



知識

停止状態で一定時間操作がなかった場合、状態表示パネルに警告が表示され、警告ブザーが鳴ります。

走行の前に

走行する前に

● モビリティに乗車して正しい運転姿勢をとり、ハンドルを左右に操作して操作に支障がないか確認してください。また、アクセルレバーやブレーキレバーが確実に操作できるか確認してください。

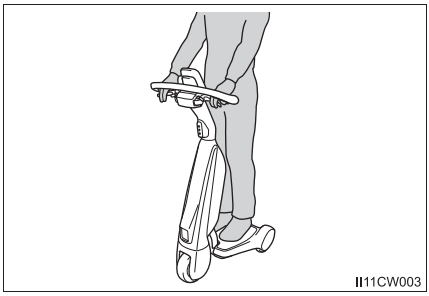
運転操作に支障がある場合は、モビリティの使用を控えてください。

● モビリティの取り扱いや走行に慣れるまで歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

練習する際は最大速度を 2km/h に設定し、徐々に最大速度を上げて速度に慣れてください。（→ P. 36）

正しい運転姿勢

ステップに両足を乗せ、左右両方のハンドルをしっかり握り、まっすぐに立ってください。



バッテリー残量と走行距離／時間の確認

バッテリー残量が 100%の時に走行できる距離／時間は約 16 km ／約 2.5 時間です。お出かけの際はバッテリー残量を確認し、帰宅できる走行距離を確認してください。

※ 気温 20 ℃、搭乗者の体重 70kg、速度 6km/h で平坦路を走行時、満充電から停止するまでの距離／時間を示します。搭乗者の体重や路面状況により変化します。

■バッテリー残量の確認方法

バッテリーがモビリティからはずされた状態では、電源スイッチを約 1 秒押し続けると電池残量表示 LED が約 5 秒間点灯し、残量の目安を確認できます。

バッテリーがモビリティに取り付けられた状態では、電源スイッチを ON にすると、電池残量表示 LED で残量の目安を確認できます。また、モビリティが走行可能な状態では、状態表示パネルにバッテリー残量が表示されます。(→ P. 24)

■バッテリー残量の目安について

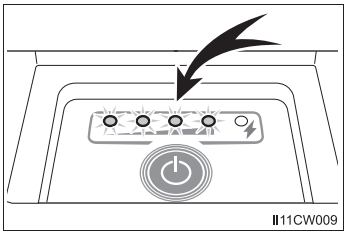
バッテリーの残量に応じて、電池残量表示 LED が次のように点灯します。

4つ点灯:バッテリー残量が約75～100%

3 つ点灯 : バッテリー残量が約 50 ～ 75%

2 つ点灯 : バッテリー残量が約 25 ～ 50%

1 つ点灯 : バッテリー残量が約 1 ～ 25%



知識

■バッテリーの種類

充電式リチウムイオンバッテリーを搭載しています。

■バッテリーの特徴

リチウムイオンバッテリーは、正しく使用していても月日が経つと徐々に性能が低下していきます。新品時にくらべ、走行できる距離は徐々に短くなっていきます。

また冬季など気温が低いときは、バッテリー残量が早く減る傾向がありますが、異常ではありません。使用後のバッテリーは満充電することを推奨しています。

バッテリーの充電を中断し、満充電される前にモビリティの使用を繰り返すと走行中に停止し、電源が再起動することがあります。その場合、バッテリー残量を正しく認識できなくなる可能性があるため、バッテリーを満充電にすることにより、その状態が解消されます。バッテリーを満充電にしてもその状態が発生する場合は、バッテリー劣化の可能性がありますのでバッテリーを交換してください。

■バッテリー交換時期の目安

バッテリーには寿命があります。寿命はモビリティの使い方、走行条件により異なります。

同じような使い方をしていても、1 回の充電で走行できる距離が短くなった場合（バッテリーが新品のときの半分程度）は、バッテリーの交換が必要です。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

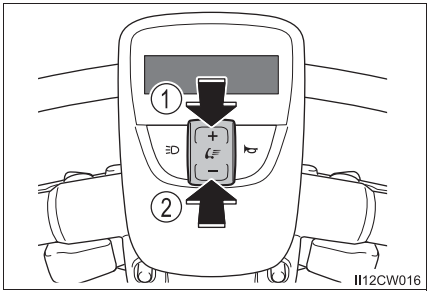
最大速度を設定する

① 最大速度を上げるには、速度切りかえスイッチの＋側を押す

② 最大速度を下げるには、速度切りかえスイッチのー側を押す

現在の最大速度が状態表示パネルに表示されます。

最大速度は 2、3、4、5※、6※ km/h から選択することができます。



※ 認証に使用したキーの登録内容によっては選択できません。（→ P. 17）

交通機関や施設を利用するとき

事前に、使用する交通機関や施設の事業者にモビリティの乗り入れ可否を確認してください。また、電車などの乗り物に乗るときは、駅の係員に声をかけて安全確認や脱輪予防をしてください。

携帯電話や通信機器を利用するとき

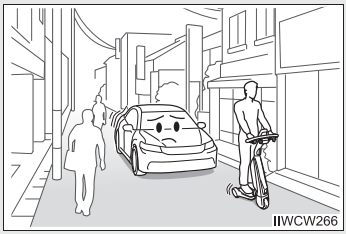
携帯電話や無線通信機器などを使用するときは、安全な場所で停止し、電源スイッチを OFF にしてください。

道路や歩道に関するご注意

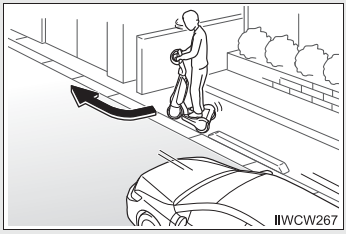
道路や歩道などを走行するときは、次のことにご注意ください。

⚠ 警告

●歩道のない場所は右側通行してください。



●歩道が途切れたところや通行できない場合など、やむを得ず車道に出るときは、車や段差に注意してください。



●混雑した場所や狭い場所では、特に周囲の状況に注意し、周りとの接触や衝突がないよう十分に速度を落としてください。また、モビリティでの走行が難しい場合は、無理に走行を続けず、モビリティから降りて押してください。

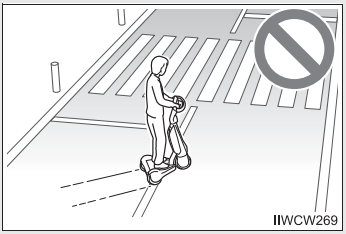
●狭い場所や近くに人がいる場合は低速で通行してください。

●交通量の多い道路は避けてください。

⚠ 警告

●斜め横断しないでください。

渡りきるのに時間がかかり、他の交通の妨げになることがあります。

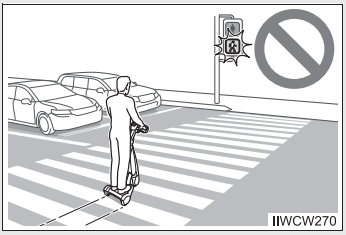


●長い横断歩道は、次の青信号まで待ってください。

青信号の途中で渡り始めると、渡り切れない可能性があります。

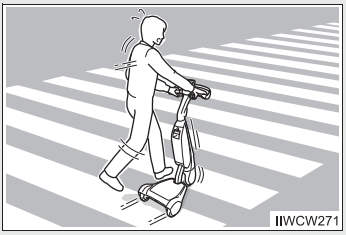
周辺検知センサー装着車：

障害物検知機能を一時的にOFFにしてください。（→ P. 27）

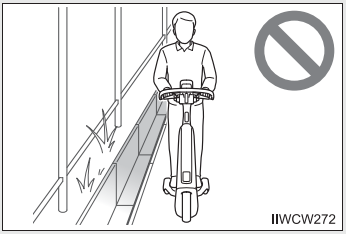


●横断歩道で動けなくなったときは自力で脱出しようとせず、近くの人に大声で助けを求めてください。

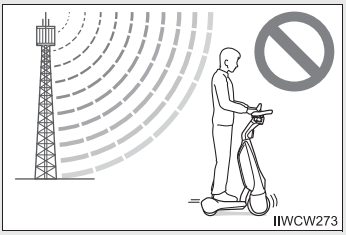
手押しで移動してください。



●柵のない側溝、路肩付近を走行しないでください。



●高圧線やテレビ塔などの強い電磁波が発生するところの近くでは、走行は避けてください。



天候や悪路に関するご注意

天候が悪い場合や路面状況が悪い場合はできるだけ走行を避けてください。

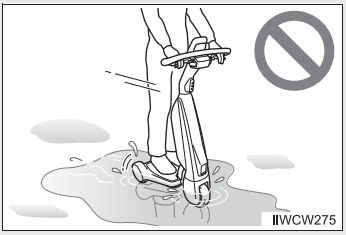
⚠ 警告

●大雨や強風、濃霧などの悪天候のときは、モビリティを使用しないでください。また、夜間など暗い場所でも使用しないでください。

IIWCW274

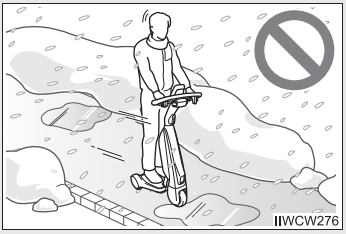
●次のような場所は走行せず、迂回するかモビリティから降りて押してください。

・砂利・落ち葉などが多い場所
・凍結・積雪しているところ
・ぬかるみや深い泥などのあるところ
・深い水たまりのあるところ
・やわらかい砂地や草地
・ぬれた鉄板の上などのすべりやすいところ
・転落防止用の柵がない側溝や路肩付近


IIWCW275

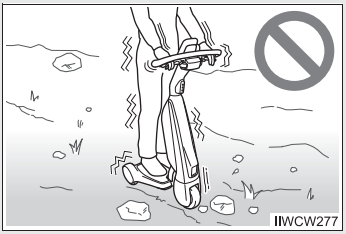
●雪道、凍結路、氷点下では使用しないでください。

車輪が滑り操縦できなくなります。

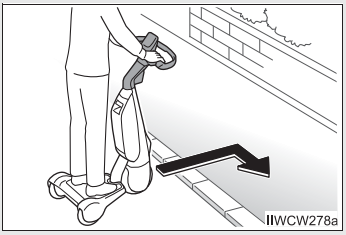

IIWCW276

⚠ 警告

●凹凸のある路面では、路面からの衝撃でバランスを崩したり、ハンドルから手が離れたりすることがあります。無理に走行せず、モビリティから降りて押してください。

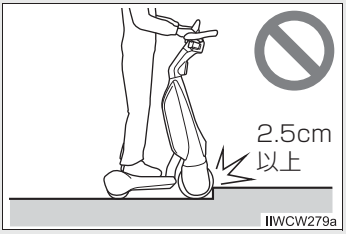


●段差や溝を乗り越える場合には、段差や溝に対して、直角に走行してください。また、小さな段差や溝であっても、ハンドルを両手でしっかりと握ってください。



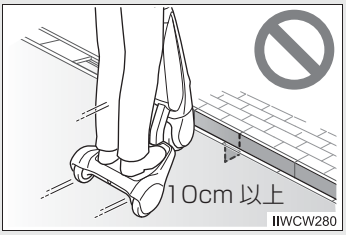
●鋭角な段差や、2.5cm 以上の段差を走行しないでください。

転倒したり、モビリティが破損したりするおそれがあります。大きな段差を乗りこえるときは、モビリティから降りて持ち上げてください。（→ P. 68）



●幅の広い溝（10cm 以上）は走行しないでください。

転倒したり、モビリティが破損したり動けなくなるおそれがあります。



坂道や傾斜に関するご注意

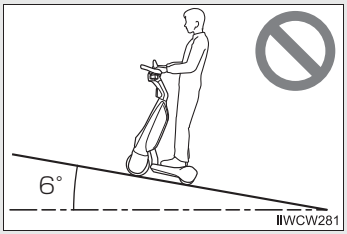
平坦路の走行にくらべてバランスを崩しやすくなるため、注意して走行してください。

⚠警告

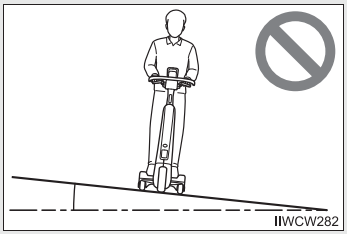
●6° をこえる坂道では、使用しないでください。

転倒のおそれがあります。

走行中に急斜面に差しかかると、状態表示パネルに警告メッセージが表示され、モビリティの速度によっては自動で減速することがあります。メッセージが表示されたら、ただちに引き返すか、モビリティから降りて押してください。



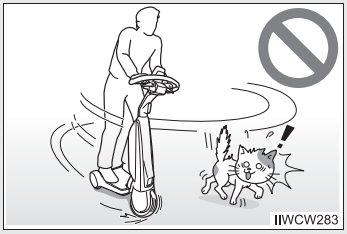
●斜面では、より転倒しやすくなるため、乗降したり走行したりしないでください。



●傾斜面を斜め走行･蛇行運転や急旋回したりしないでください。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

●傾斜面を横断するときは身体を斜面の山側（または上側）に傾けてバランスを取ってください。



●傾斜面では上り下りとも、前進で真っすぐゆっくりと走行してください。

●斜面で停車しているときは、手動ブレーキを使用してください。

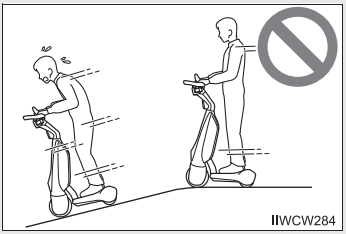
手動ブレーキを使用しないと、状況によってはモビリティが意図せず動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

●下り斜面に差しかかる前に、十分に減速してください。

減速しないまま下り斜面を走行すると、速度調節が困難になるなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

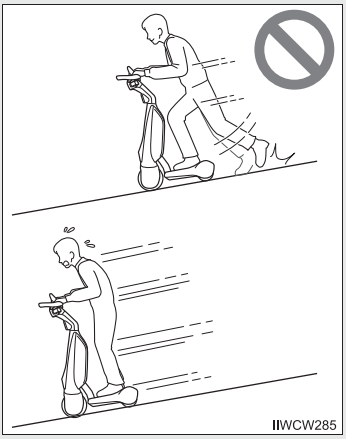
●下り坂では最高速度設定を2km/hにして前進で慎重に降りてください。



●坂道で停止したままにしないでください。

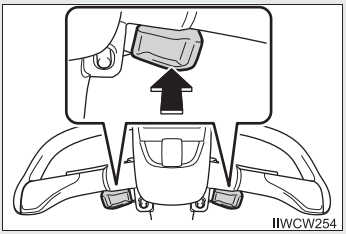
●片足でこぐような乗り方はしないでください。

とくに斜面では、転倒のおそれがあるので、絶対にしないでください。思わぬ事故のおそれがあります。



●下り斜面での速度調節は、アクセルレバーで行ってください。

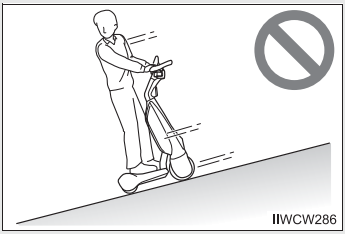
手動ブレーキを使用することもできますが、手動ブレーキを使用すると平坦路にくらべて前のめりになりやすく、より転倒しやすくなります。ゆっくりブレーキレバーを握り、徐々にブレーキをかけるようにするなど、十分に注意して使用してください。



⚠ 警告

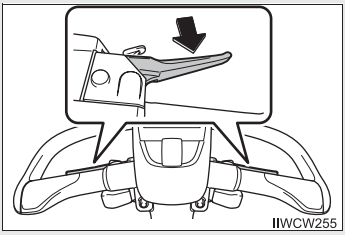
●斜面をうしろ向きで下りないでください。

上っていた斜面を途中で引き返して下りる必要があるなどの場合は、いったんモビリティから降り、モビリティを押して方向転換したあと、前向きでゆっくり走行してください。



●斜面で停車しているときは、手動ブレーキを使用してください。

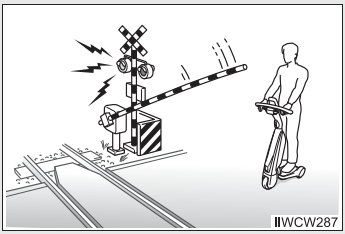
手動ブレーキを使用しないと、状況によってはモビリティが意図せず動き、思わぬ事故につながるおそれがあります。



踏切に関するご注意

踏切内で立ち往生する可能性があるため、踏切の横断はできるだけ避けてください。やむを得ず踏切を渡る場合は、次のことにご注意ください。

⚠ 警告


IIWCW287

- ●踏切の手前で一時停止し、安全を確認してください。
- ●警報機が鳴り始めているときや、遮断機が下り始めているときは、踏切内に入らないでください。

  踏切を渡り切れない可能性があります。
- ●横断に時間のかかる踏切は迂回してください。

  踏切を渡り切れない可能性があります。

IIWCW252

- ●踏切に入る前にバッテリーの残量を確認してください。

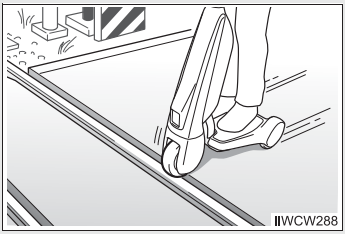
  踏切を渡り切れない可能性があります。
- ●踏切内で停止しないよう速やかに横断してください。

  周辺検知センサー装着車：
  障害物検知機能を一時的にOFFにしてください。（→ P. 27）

⚠ 警告

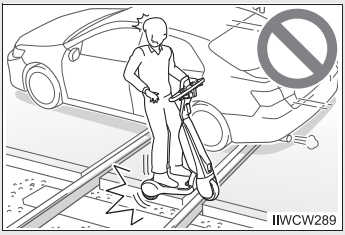
●線路に対して直角に走行してください。

線路の溝にタイヤを取られないように注意してください。



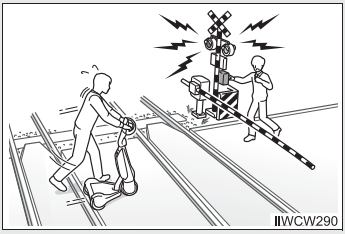
●踏切の端を走行しないでください。

線路のすき間が大きく、タイヤが落ち込みやすくなります。



●動けなくなったときは、近くの人に大声で助けを求めてください。

●万が一踏切内から脱出できない場合には、近くの人に協力してもらって踏切に設置してある非常停止ボタンを押してください。



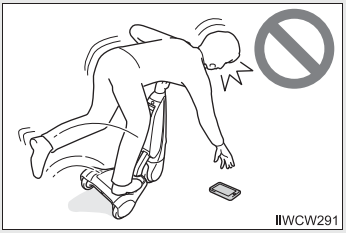
走行中の注意

他の歩行者や路面状況など、周囲の状況に常に注意を払い、安全に走行できるよう心がけてください。

⚠ 警告

●正しい姿勢で運転してください。

乗車中は体を前後左右に大きく傾けたり、片手で運転したりしないでください。バランスを崩して転倒しやすくなったり、モビリティが故障・破損したりするおそれがあります。

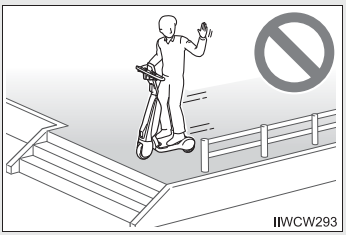


●走行中に手や足や身体を車体からはみ出さないでください。

車体と障害物の間に手や足や体を挟んだり、他の歩行者と接触するおそれがあります。

●手放しや片手運転、わき見運転をしないでください。

思わぬ事故の原因になります。

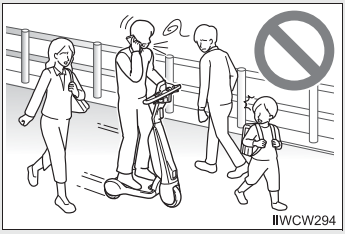


⚠ 警告

●走行中はできるだけ、操作パネルの操作や最高速度の設定を変更しないでください。

●走行中に携帯電話を使用しないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。

使用するときは安全な場所に停止、電源スイッチを OFF にしてください。

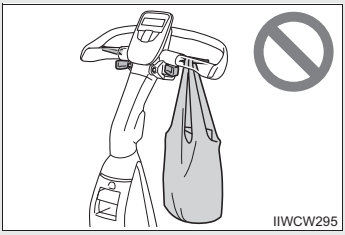


●走行中にイヤフォンやヘッドフォンを使用しないでください。

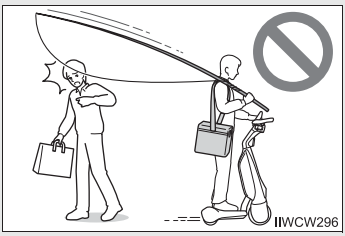
周囲の状況などへの注意が不十分になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●アクセルレバーやブレーキレバーにものをかけて走行しないでください。

急加速や急停止の原因になります。



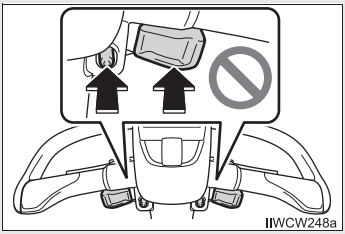
●人にぶつかったり、運転操作の支障になったりするような荷物を持って走行しないでください。



⚠ 警告

●発進時以外アクセルレバーまたはバックボタンにふれないでください。

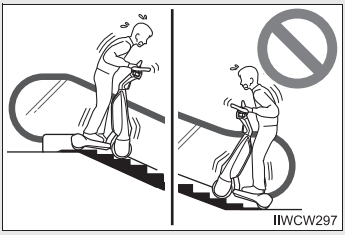
モビリティが意図せず動き出すおそれがあります。



●裾の長い服はタイヤに巻き込まれるおそれがあるため、着用しないでください。

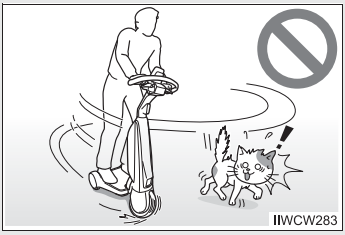
●エスカレーターや階段でモビリティを使用したり、運搬したりしないでください。

万一バランスを崩すとモビリティが落下し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。



●傾斜面を横断したり、斜め走行・蛇行運転・急発進・急旋回・急停止・急加速を避けてください。

バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

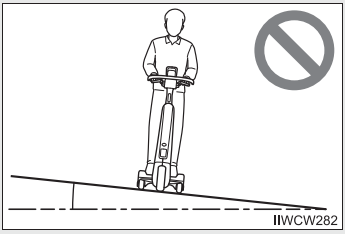


●方向転換する前に、十分減速してください。

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動しますが、機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながるおそれがあります。

●斜面や段差のある場所など、安定していない場所にモビリティを駐車しないでください。

モビリティが倒れたり、急に動きだしたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

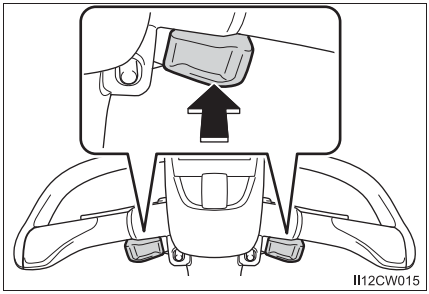


前進のしかた

1 周囲の安全を確認する

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P. 52）

3 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でアクセルレバーをゆっくり前に押す



走り出す際は、必ず振り返って後方を確認してください。

左右どちらのアクセルレバーでも操作することができます。

アクセルレバーの押し加減で、速度を調節することができます。また、アクセルレバーをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。

方向転換するときは、体をまっすぐに保ったままハンドルを曲がりたい方向に切ってください。

モビリティの速度とハンドルの切れ角によっては、方向転換時にモビリティが自動で減速することがあります。

■ 自動減速機能

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動します。また、坂道を上り下りする際、バッテリーの電流や電圧によってモビリティの速度を自動で減速する機能が働きます。

⚠ 警告

●方向転換する前に、十分減速してください。

モビリティの速度とハンドル切れ角によっては自動で減速する機能が作動しますが、機能に頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながるおそれがあります。

後退のしかた

1 周囲の安全を確認する

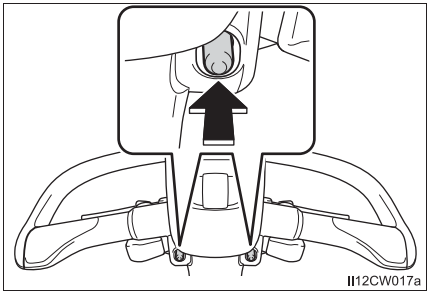
2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P. 52）

3 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でバックボタンを押す

モビリティが後退します。

左右どちらのバックボタンでも操作することができます。

バックボタンをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。



⚠ 警告

●後退するときは体をひねった姿勢となり、バランスを崩しやすくなるため、特に注意してください。

知識

■後退時の警告ブザーについて

後退していることを知らせるため、後退時は断続的に警告ブザーが鳴ります。

■後退時の速度について

前進時の最大速度にかかわらず、約 1km/h で後退します。

停止のしかた

アクセルレバーまたはバックボタンをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。通常走行時は、アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてモビリティを減速・停止させてください。走行中の緊急時、または停止中に必要に応じて手動ブレーキを使用してください。

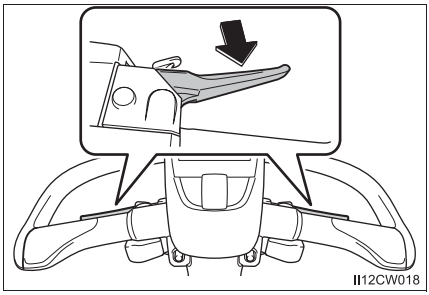
斜面で停車しているときは、手動ブレーキを使用してください。

■ 手動ブレーキ（緊急ブレーキ）

ブレーキレバーを手前に引くと、前輪のブレーキがかかります。

左右どちらのブレーキレバーでも、手動ブレーキをかけることができます。

手動ブレーキをかけると、状態表示パネルにブレーキインジケーターが表示されます。（→ P. 24）



⚠ 警告

- アクセルレバーまたはバックボタンをもどしてからモビリティが停止するまでの距離は、走行条件によってかわります。余裕を持って停止できるよう心がけてください。
- 走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。

  急ブレーキにならないような走行を心がけてください。

知識

■状態表示パネルにブレーキインジケーターが表示されているとき

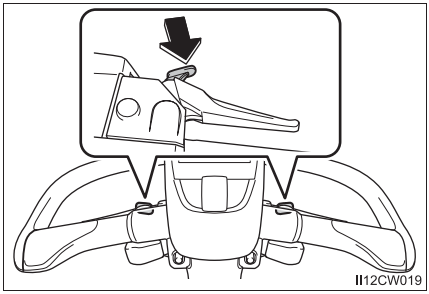
アクセルレバーまたはバックボタンを操作しても、モビリティは動きません。モビリティを動かすときは、手動ブレーキを解除してから再度アクセルレバーまたはバックボタンを操作してください。

駐車のしかた

停止中に必要に応じてパーキングブレーキをかけて、モビリティを駐車します。

■ パーキングブレーキ

ブレーキレバーを引いたままパーキングブレーキレバーを手前に引くと、手動ブレーキをかけたままにしておくことができます。駐車するときや、長時間停止するときに使用してください。



左右同時にブレーキレバーを握り、左右の人差し指でパーキングブレーキレバーを手前に引いてください。片手ずつ操作することもできますが、操作力が必要となり、操作しにくくなる可能性があります。

解除するときは、ブレーキレバーをさらに手前に引いてください。

⚠ 警告

●斜面や段差のある場所など、安定していない場所にモビリティを駐車しないでください。
モビリティが倒れたり、急に動きだしたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

バッテリーの取扱い

⚠ 警告

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、感電したり、発熱・発火して火災になったり、バッテリーが破裂したりするなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■バッテリーについて

- ●指定されたもの以外のバッテリーを使用したり、モビリティのバッテリーを他の機器で使用したりしないでください。
- ●充電するときは、専用の充電器を使用してください。
- ●火中に投入したり、加熱したりしないでください。
- ●分解したり、改造したりしないでください。
- ●釘などの先のとがったものを刺したり、衝撃を与えたりしないでください。
- ●落下させないでください。
- ●端子部分に金属製のものを接触させないでください。
- ●火気の近くや、高温になるところ、直射日光のあたるところで使用したり、充電したり、放置したりしないでください。
- ●水を入れたり、水中に投入したりしないでください。
  バッテリーが水につかった場合はただちに使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- ●傷が付いた状態で使用しないでください。
  傷が付いているときは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
- ●液体の付着やもれがある場合は、絶対にさわらないでください。
  電解液が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。
- ●電解液がもれている場合は、近付かないでください。
  万一バッテリーが破損しても、内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

⚠ 警告

■充電器について

- ●分解したり、改造したりしないでください。
- ●水でぬらしたり、衝撃を与えたりしないでください。
- ●指定されたバッテリー以外を充電しないでください。
- ●屋外で使用しないでください。
- ●充電器にコードを巻き付けて保管しないでください。
- ●水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で保管しないでください。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

⚠ 注意

■バッテリーの故障を防ぐために

- ●状態表示パネルに「充電してください」の警告が表示されたら、バッテリーを放置せずに満充電にしてから保管してください。放置したままにするとバッテリーが故障する原因になります。
  また、1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを車両からはずして、満充電まで充電してから保管してください。使用していなくても 3ヶ月に 1 回は、満充電まで充電してください。
- ●バッテリーを保管するときは、気温が約0～40℃の屋内で保管してください。

■プラグや充電コネクターを抜くとき

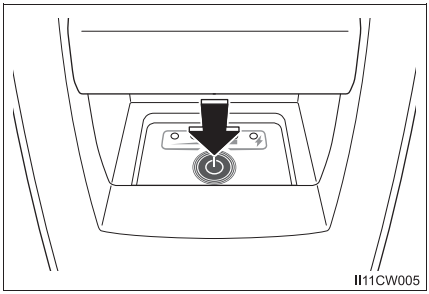
プラグまたは充電コネクターを持って抜いてください。コードを引っ張って抜くと、コードやプラグ・充電コネクターが破損するおそれがあります。

バッテリーの取付け / 取外し

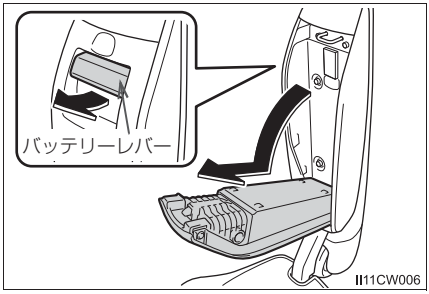
バッテリーを取りはずす

1 電源スイッチが ON のときは、電源スイッチを OFF にする

電源スイッチを約 1 秒押し続け、状態表示パネルの表示が消えたことを確認してください。



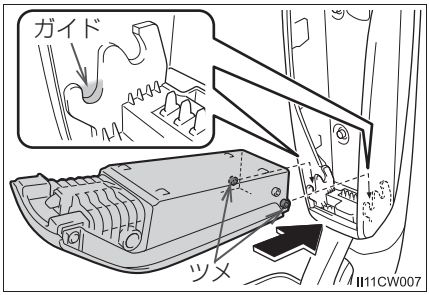
2 バッテリーレバーを引き上げてバッテリーを手前に倒し、引き抜く



バッテリーを取り付ける

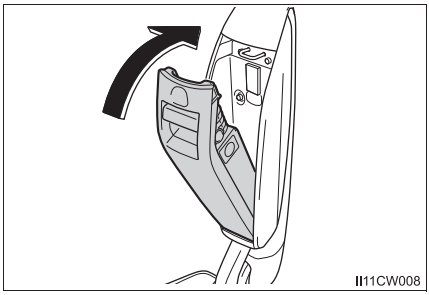
1 モビリティ側のガイドにバッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを挿し込む

バッテリーの背面が見える程度傾けて、下部のツメを合わせてください。傾きが浅いと位置が合わせにくくなる場合があります。



2 バッテリーの上部を、“カチッ”と音がするまで押し込み、バッテリーをロックする

取り付け後は、バッテリーが確実に固定されているか確認してください。



⚠ 警告

- モビリティのバッテリー取り付け部分がぬれていないことを確認してください。
  ぬれているときは、乾いた布でふき取ってからバッテリーを取り付けてください。
- 取り付け後は、バッテリーが確実に固定されているか確認してください。
  また、確実に固定されていることを確認する前に電源スイッチを押さないでください。
  確実に固定されていないと、走行中にバッテリーがはずれて落下し、けがをするおそれがあります。

バッテリーの充電方法

バッテリーの充電は、モビリティからバッテリーを取りはずし、専用の充電器を使用して屋内で行ってください。

出荷時は、バッテリーの容量が少なくなっているため、モビリティを初めて使用するときや、1ヶ月以上使用していないときは、モビリティからバッテリーを取りはずし、専用の充電器で満充電まで充電してください。

■充電時間の目安

バッテリーが空の状態から約 2 時間半で満充電になります。

バッテリーの温度などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

■充電に適した場所

非常に暑い場所または寒い場所では、正しく充電できないことがあります。次のような充電に適した場所で充電してください。

- ●屋内
- ●気温約 10 ～ 40 ℃
- ●風通しのよいところ
- ●直射日光のあたらないところ

■充電器のプラグをコンセントに挿し込むとき

火花が発生することがありますが、異常ではありません。

■充電中の留意事項

- ●充電中は充電器とバッテリーが温かくなりますが、異常ではありません。
- ●テレビやラジオに雑音が入ることがあります。
  その場合は、場所をかえて充電してください。

⚠ 警告

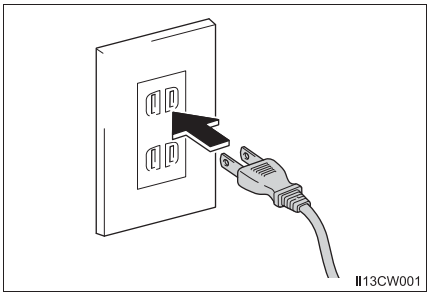
■充電するとき

- ●指定された充電器およびバッテリーを使用してください。
- ●乳幼児の手の届く場所やペットがいる場所では、充電しないでください。
- ●水がかかる場所や湿気の多い場所、ほこりの多い場所で充電しないでください。
- ●平坦な安定している場所で充電してください。
  机や台の上で充電する場合、充電器やバッテリーが落下しないように注意してください。
- ●バッテリーが倒れて衝撃を受けるおそれがあるため、充電中はできるだけバッテリーを寝かせてください。
- ●充電前に充電器のプラグ・充電コネクターやバッテリーのコネクターに変形・破損・腐食がないか、ほこり等の異物が付着していないか確認してください。変形・破損・腐食がある場合は、充電しないでください。また、ほこり等の異物が付着している場合は、プラグや充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- ●ぬれた手で充電しないでください。また充電器やバッテリーに水分が付着している場合は、乾いた布でふき取るなど、よく乾かしてから充電してください。
- ●充電コネクターをバッテリーに挿し込むときは、手や指を挟まないように注意してください。
- ●充電コネクターの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしないでください。
- ●タコ足配線になっているなど、定められた容量をこえた配線器具を使用して充電しないでください。
- ●プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込んでください。
- ●充電器のコードを束ねたり巻いたりした状態で充電しないでください。
- ●充電器･充電器のコード･バッテリーにつまずかないように注意してください。
- ●充電中は、充電器とバッテリーを布などで覆わないでください。
- ●充電中は、引火のおそれがあるものを近付けないでください。
- ●充電中に異音・異臭がしたり、煙が発生したりするなどの異常を感じたら、ただちにプラグをコンセントから抜いて充電を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

充電する

1 バッテリーを取りはずす

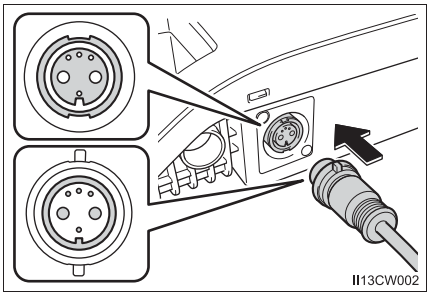
2 充電器のプラグをコンセントに挿し込む



3 充電器の充電コネクターをバッテリーのコネクターに接続する

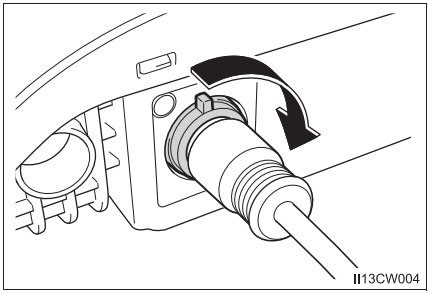
自動で充電が開始します。

充電コネクターとバッテリーのコネクターの形状を確認し、充電コネクターのロックの突起が、図のように上下の位置になるようにして接続してください。



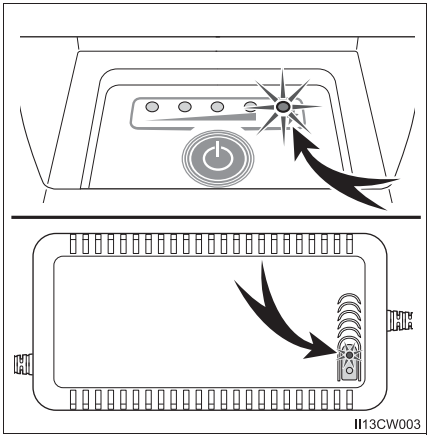
4 充電コネクターをロックする

充電コネクターのロックを時計まわりにまわしてください。充電コネクターがバッテリーから抜けなくなります。



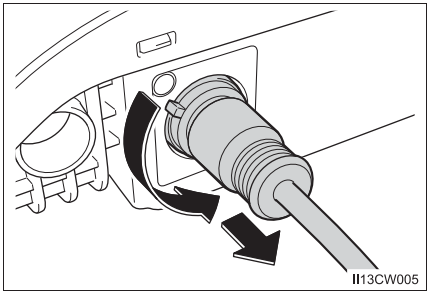
5 充電が開始したことを確認する

バッテリーの充電状態表示LEDが橙色に点灯し、充電器のインジケーターが赤色に点灯していることを確認してください。



6 充電を終了する場合は、充電コネクターのロックを解除し、バッテリーから取りはずす

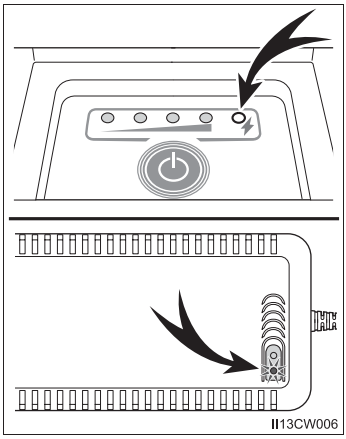
充電コネクターのロックを反時計まわりにまわし、ロックの突起が上下の位置になるようにして取りはずしてください。



7 充電器のプラグをコンセントから取りはずす

■充電完了の確認方法

バッテリーの充電状態表示 LED が消灯し、充電器のインジケーターが緑色に点灯していることを確認してください。



■充電器を接続しても充電が始まらないとき

充電器のインジケーターを確認し、次のように対処してください。

●インジケーターが緑色にゆっくり点滅しているとき
バッテリーを低温の場所に放置していたなど、バッテリーの温度が低くなっているおそれがあります。いったん充電器をはずし、バッテリーの温度が上がるまでお待ちください。

●インジケーターが緑色に速く点滅しているとき
走行直後など、バッテリーの温度が高くなっているおそれがあります。いったん充電器をはずし、バッテリーの温度が下がるまでお待ちください。

●インジケーターが赤色と緑色に交互に点滅しているとき
充電異常のおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

●インジケーターの赤色の点灯が続かず、すぐに消灯したとき
充電器のプラグと充電コネクターをはずし、3 分以上お待ちください。

●インジケーターが赤色に 4 秒に 1 回点灯しているとき
充電器が故障している可能性があります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

走行練習するとき

走行練習する際は、「1. 取扱書」の記載内容をよくお読みいただき、正しい取り扱い方法を十分ご理解の上、必ずお買い上げ販売店かお付き添いの方と一緒に行ってください。

⚠ 警告

●走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。

急ブレーキにならないような走行を心がけてください。

⚠ 注意

●モビリティに乗車して正しい運転姿勢をとり、ハンドルを左右に操作して操作に支障がないか確認してください。また、アクセルレバーやブレーキレバーが確実に操作できるか確認してください。

運転操作に支障がある場合は、モビリティの使用を控えてください。

●歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

●運転に慣れるまでは、公道を走行しないでください。

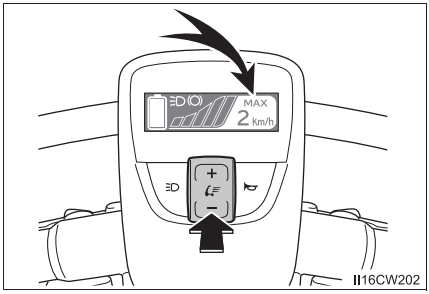
走行練習のしかた

初めて乗る際は、モビリティの取り扱いや走行に慣れるまで歩行者や障害物のない広い平坦な場所で練習し、モビリティの操作方法を覚えてください。

練習する際は最大速度を 2km/h に設定し、徐々に最大速度を上げて速度に慣れてください。

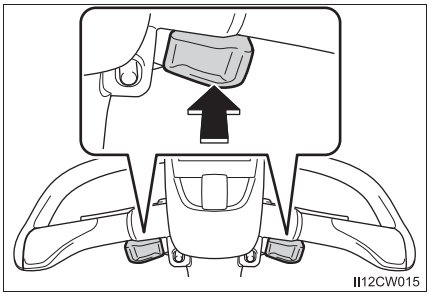
1 電源を入れて、速度切り替えスイッチの「−」を押し、速度を「2」に合わせる

最大速度が 2 km/h に設定されます

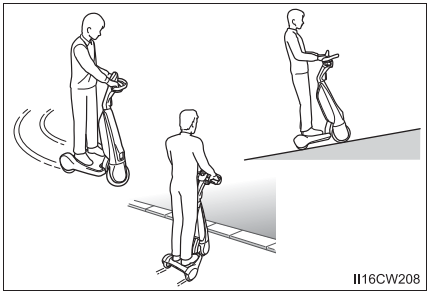


2 左右両方のハンドルをしっかり握り、親指でアクセルレバーをゆっくり前に押す

左右どちらのアクセルレバーでも操作することができます。アクセルレバーの押し加減で、速度を調節することができます。また、アクセルレバーをもどすとブレーキがかかり、モビリティが停止します。



3 旋回、緩い角度の傾斜地、段差の乗り越えを試し、少しずつ速度を上げて練習する



4 運転感覚が身についたら、お付き添いの方と一緒に公道で走行する。

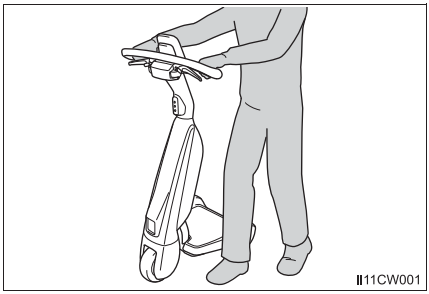
手押しで移動するとき

モビリティを手押しで移動するときは、モビリティから降りて、以下の方法で移動します。

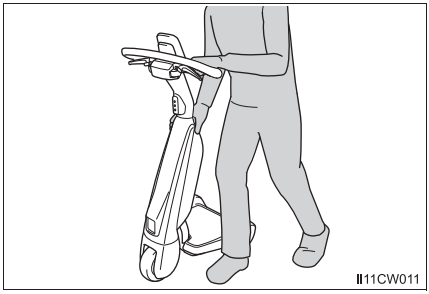
1 モビリティを完全に停止させる（→ P. 51）

2 モビリティの横に立って左右両方のハンドルをしっかり握り、ゆっくり前に押す

ゆっくり歩く程度の速度で押してください。



下り斜面でモビリティを押すときは、図のようにモビリティを支えて押してください。

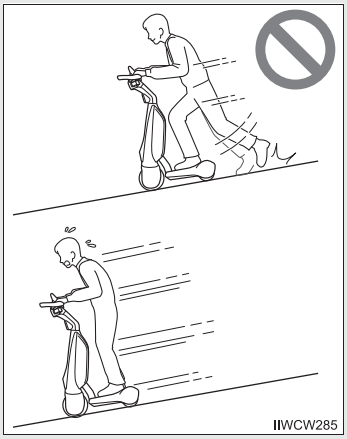


3 安全な場所に移動したら、モビリティを駐車する（→ P. 52）

⚠ 警告

●片足でこぐような乗り方はしないでください。

とくに斜面では、転倒のおそれがあるので、絶対にしないでください。思わぬ事故のおそれがあります。



●手押しで移動する時にアクセルを操作しないでください。急に発進して危険です。押して歩くときは、モビリティの電源を OFF にしてください。

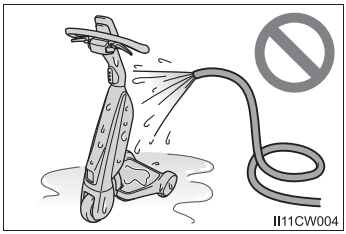
お手入れするとき

モビリティが汚れたときは、水またはぬるま湯を含ませた布を固くしぼり、汚れをふき取ってください。

⚠ 注意

●お手入れをするときは、電源スイッチを切ってください。

●ホースで水をかけて洗わないでください。
電子部品を損傷するおそれがあります。



●変色･しみ･塗装はがれの原因になるため、次のものは使用しないでください。

・ ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤
・ 洗剤やアルコール分を含んだもの
・ テープ等の粘着性のあるもの

●ワックスを使用しないでください。
運搬時に手がすべり、けがをするおそれがあります。

保管するとき

通常の保管

● モビリティは、次のような場所で保管してください。
・平坦で安定しているところ
・風通しがよく、湿気が少ないところ
・屋根があり、雨つゆや直射日光が当たらないところ

● 保管するときは、別売りのカバーの使用をおすすめします。
カバーは、お買い上げ販売店または取り扱い販売店で購入することができます。

長期の保管

● 1ヶ月以上使用しない場合は、バッテリーを車両からはずしてください。はずしたバッテリーは、満充電まで充電してから室内で保管してください。(→ P. 57)

● 長期間保管した後に使用するときは、必ずバッテリーを満充電まで充電してからご使用ください。(→ P. 57)

本書について

● 本書はいつでも見られる場所に保管し、使用中にわからないことや不都合などが生じた場合は、必ず確認してください。

● モビリティを他の人に譲渡するときは、本書も一緒に渡してください。

運搬するとき

モビリティの押し方

「手押しで移動するとき」（→ P. 64）の手順に従って押してください。
（運搬の際に、ハンドルプロテクターを引っ張ったりしないでください。）

⚠ 警告

降車した状態でアクセルを操作して移動させないでください。

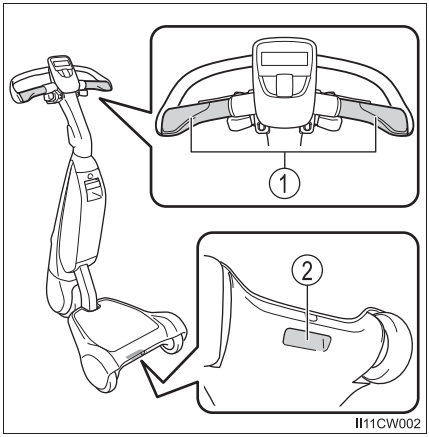
転倒などのおそれがあります。

モビリティの持ち上げ方

電源スイッチを OFF にして、次の安全に持ち上げられる箇所を持って運んでください。

① ハンドル

② ステップ後方



⚠ 警告

- 2 人以上で作業してください。
- ハンドル・ステップ後方以外の箇所を持って持ち上げないでください。

  モビリティが破損して落下し、思わぬ事故につながる原因になります。特にハンドルプロテクター・状態表示パネルの周辺・タイヤは破損しやすいため、注意してください。

モビリティの固縛

モビリティを運搬や輸送するために車両などに固縛するときは、ハンドルおよびステップを使用して固縛してください。また、必ず電源スイッチを OFF にしてパーキングブレーキをかけてください。
(→ P. 52)

傷が付くのを防ぐため、ハンドルやステップに布などを巻いたり、保護材を置いたりするなどして保護してください。

モビリティを固縛したあとは軽くゆさぶり、確実に固定されていることを確認してください。

⚠ 注意

- ハンドルまたはステップ以外を使用して固縛しないでください。
  モビリティが破損するおそれがあります。
- 固縛に使用するひもやケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。
  モビリティの損傷につながるおそれがあります。

廃棄するとき

環境保全および限りある資源を守るため、モビリティやバッテリーの廃棄については、お買い上げ販売店または取り扱い販売店に従ってください。

■ **バッテリーの廃棄**

バッテリーのほとんどの素材がリサイクル可能です。使用済みのバッテリーの廃棄については、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

困ったときの対処

お困りの際は、次のことを確認してください。解決しない場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

走行前

症状	確認内容・対処方法
バッテリーが取り付けられない	モビリティ側のガイドにバッテリー下部のツメを合わせながら、ゆっくりとバッテリーを挿し込んでください。バッテリーの背面が見える程度傾けて、下部のツメを合わせてください。傾きが浅いと位置が合わせにくくなる場合があります。（→ P. 56）
電源スイッチを ON しても状態表示パネルに何も表示されない	電源スイッチを約 1 秒押し続けてから電池残量表示 LED を確認してください。（→ P. 23） 点灯しないまたは、電池残量表示 LED が 1 つ点灯している場合： **→ バッテリーを充電してください。（→ P. 57）** 電池残量表示 LED が 2 つ以上点灯している場合： **→ モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。** 異常点灯する場合： **→ バッテリーの保護機能が働いています。電池残量表示 LED の点灯に応じて対処してください（→ P. 77）**
状態表示パネルにエラー表示（E ○○）	いったん電源スイッチをOFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。再度同じエラーコードが表示される場合は、モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。（→ P. 25）
キーで認証エリアにふれても状態表示パネルが変わらない	キーの故障の可能性があります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。 ※ 電源スイッチを ON にしたあと、約 1 分以内にキーが認証されなかった場合、自動で電源スイッチが OFF になります。
キー認証後に警告ブザーが鳴る	キー認証前からアクセルレバーまたはバックボタンが押されていると警告ブザーが鳴ります。いったんアクセルレバーまたはバックボタンを離してください。（→P. 15）

症状	確認内容・対処方法
発進しない	電源が入っており、キーの認証がされていますか？ **→ 電源スイッチを ON にして、キーで認証エリアにふれてください。（→ P. 23）**
	警告ブザーが鳴っていませんか？ **→ キー認証前からアクセルレバーまたはバックボタンが押されていると警告ブザーが鳴ります。いったんアクセルレバーまたはバックボタンを離してください。（→ P. 15）**
	パーキングブレーキがかかっていませんか？ **→ パーキングブレーキを解除してください。（→P. 52）**

走行中

症状	確認内容・対処方法
車両が停止（惰性停止）	モビリティの保護機能が働いた、または故障のおそれがあります。まず車両を降り、安全な場所まで移動してください。その後、状態表示パネルを確認してください。 ・状態表示パネルにエラー表示（E ○○） **→ いったん電源スイッチを OFF にし、再度電源スイッチを ON にしてください。再度同じエラーコードが表示される場合は、モビリティが故障しているおそれがあります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。（→ P. 25）** ・状態表示パネルが消灯 **→ 電源が停止しています。バッテリーの残量低下が考えられますので、電源スイッチを ON にして、電池残量表示LEDを確認してください。** 点灯しない場合： **→ バッテリーを充電してください。（→ P. 57）** 異常点灯する場合： **→ バッテリーの保護機能が働いています。電池残量表示 LED の点灯に応じて対処してください。（→ P. 77）**
障害物がないのに減速した	周辺検知センサーに水滴や汚れが付いていたり、逆光などで強い光がセンサーに当たったりしている場合（太陽に向かって走行したり、冬場で太陽の位置が低かったりする場合）、障害物がなくても機能が作動することがあります。この場合は一時的に障害物検知機能を OFF にしてください。また、障害物検知機能の使用を中止する時は、キーの設定を「障害物検知機能：無効」に変更してください。（→ P. 17、27）
状態表示パネルに「充電してください」と警告が表示された	バッテリー電圧が低下しています。バッテリーを充電してください。（→ P. 57）

症状	確認内容・対処方法
状態表示パネルに「停車してください」と警告が表示された	急な坂道や傾斜地または、上り坂を長時間走行したりしていませんか？ いったん走行を停止し、警告ブザーが消えた場合は走行を再開してください。 登板走行時に一時的に電圧低下した時、または、降板走行時の回生エネルギーによって電圧が上昇した時などに警告ブザーが鳴ります。（→P. 15） バッテリー電圧が低い時は発生しやすいため、充電をしてください。（→ P. 57）
状態表示パネルに「急斜面危険」と警告が表示された	走行可能傾斜を越えています。ただちに一番低い速度設定（2km/h）に変更して、安全に注意しながら平地へ移動して下さい（→ P. 15）
平地でアクセルレバーを追し込んでも、最高速まで達しない	ハンドルをきっていませんか？ 旋回時速度抑制機能が働いています。ハンドルを直進にしても最高速度まで達しない場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

停止時

症状	確認内容・対処方法
手で押しても動かない	パーキングブレーキがかかっていませんか？解除してください（→ P. 52）
電源が OFF できない	電源スイッチを約 1 秒押し続けてください。 （→ P. 23）
バッテリーが外れない	バッテリーレバーを引き上げてバッテリーを手前に倒し、引き抜いてください。（→ P. 55）

充電できない

症状および確認内容	対処方法
充電器のプラグはコンセントにしっかり挿し込まれていますか？バッテリーと充電器の接続は確実ですか？	いったん各接続部をはずし、しばらく（3 分ほど）経ってから再度接続して充電してください。(→P. 59)
充電器のインジケーターは赤色に点灯していますか？	
バッテリーの充電状態表示LEDは橙色に点灯していますか？	
充電器のインジケーターが、緑色にゆっくり点滅、または速く点滅していますか？	バッテリー内部の温度が高温、または低温の場合、待機状態になります。 バッテリーを室内などの環境下でしばらく（約 1 時間）放置すると待機状態が終了して、充電が開始されます。（→ P. 61）
充電器のインジケーターが、赤色にゆっくり点滅していますか？	充電開始前の準備状態です。しばらくすると充電が開始されます。

充電器のインジケーターが異常点滅する

症状および確認内容	対処方法
充電器のインジケーターが、赤色と緑色にゆっくりと交互に点滅していますか？	充電器またはバッテリーが故障しています。 修理が必要になるため、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。（→ P. 61）
充電器のインジケーターが、赤色と緑色に速く交互に点滅していますか？	いったん各接続部をはずし、バッテリーを室内などの環境下でしばらく（約 1 時間）放置した後、再度接続して充電してください。（→ P. 59） 同じ症状が出る場合は、モビリティの使用をやめて、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

充電中に充電器のインジケーターが異常点灯・点滅する

症状および確認内容	対処方法
充電中、充電器のインジケーターが赤色に 1 回点灯し、消灯していますか？	いったん各接続部をはずし、しばらく（3 分ほど）経ってから再度接続して充電してください。(→P. 59)
充電中、充電器のインジケーターが、赤色に 4 秒に 1 回点灯していますか？	充電器が故障している可能性があります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。(→P. 61)

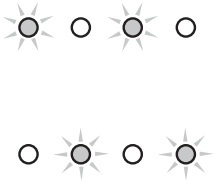
充電器のインジケーターが点灯しない

症状および確認内容	対処方法
充電中、充電器のインジケーターが赤色に点灯しない	いったん各接続部をはずし、しばらく（3 分ほど）経ってから再度接続して充電してください。(→P. 59) 再度充電してもバッテリーの充電状態表示 LED が橙色に点灯しない場合、充電器が故障している可能性があります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

バッテリーの充電状態表示 LED（橙色）/ 電池残量表示 LED（緑色）が点灯しない

症状および確認内容	対処方法
電源スイッチを押しても、緑色に点灯しない	いったん各接続部をはずし、しばらく（3 分ほど）経ってから再度接続して充電してください。(→P. 59) 再度充電してもバッテリーの充電状態表示 LED が点灯しない場合、バッテリーが故障している可能性があります。お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。
充電中、緑色と橙色に点灯しない	

バッテリーの電池残量表示 LED が異常点灯・点滅する

症状および確認内容	対処方法
バッテリーの電源スイッチを押すと緑色が交互に点滅していますか？ 	バッテリー内部温度が高温、または低温の場合、待機状態になります。 バッテリーを室内などの環境下でしばらく（約 1 時間）放置すると待機状態が終了して、使用可能になります。

転倒したとき

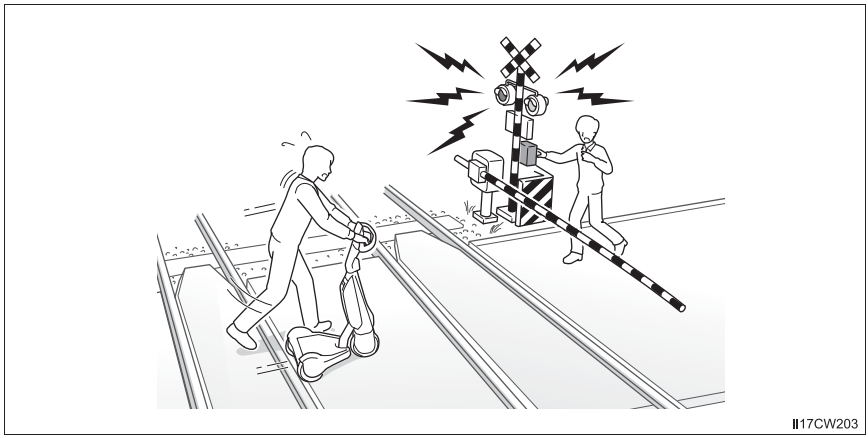
万一転倒してしまったときは、無理をせず、近くの人の助けを借りてモビリティを起こしてください。モビリティを起こすときは、左右両方のハンドルを持ってモビリティを起こしてください。また、再度走行する前にモビリティの破損や異常がないか、状態表示パネルにエラーコードが表示されてないかを確認してください（→ P. 25）。

破損や異常がある場合はモビリティの使用を中止し、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

踏切で動けなくなったとき

タイヤが線路のすきまにはまって動けなくなったときは、すぐに近くの人を呼んでください。モビリティから降りて手で押して安全な場所へ移動してください。

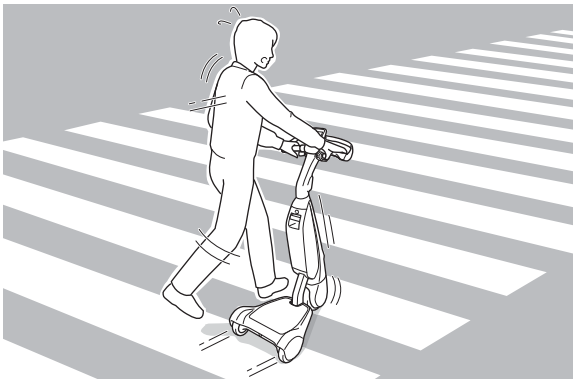
万一、踏切内から脱出できない場合は、踏切に備え付けてられている非常ボタンを押してください。



II17CW203

横断歩道で動けなくなったとき

横断歩道で動けなくなったときは、すぐに近くの人を呼んでください。モビリティから降りて手で押して安全な場所へ移動してください。



II17CW204

点検 2

2-1. 点検
点検の必要性.....82
点検項目 83
2-2. 使用前点検
使用前点検のしかた.....86
使用前点検の記録.....96
2-3. 定期点検
定期点検のしかた.....97
定期点検の記録.....102

点検の必要性

モビリティは多くの部品からなり、使用中に各部が摩耗したり、劣化したりします。

モビリティの点検には、毎日の使用前に実施する使用前点検と、購入から 1 年ごとに実施する定期点検があります。

安全に、末永くモビリティを使用するため、点検を行い、その結果必要となった整備や部品交換を実施してください。

なお、定期点検は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店でも行えます。ぜひご利用ください。

点検項目

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検（1 年ごと）
バッテリーの取り付け状態	・バッテリーを取り付けた状態でがたつきがないこと ・ロックがしっかりかかっていること	○	○
バッテリーの取りはずし	バッテリーを取りはずす際に、バッテリーレバーやツメに引っかかりがないこと	○	○
ボデーパネルの状態	著しい傷や破損がないこと	○	○
タイヤの状態	亀裂・損傷・異常な摩耗がないこと	○	○
ブレーキレバーの引き残り代	ブレーキレバーを引いてブレーキが作動した状態（モビリティを押しても動かない状態）で、ハンドルとブレーキレバーにすき間があること（参考値：すき間 5mm 以上）	○	○
パーキングブレーキレバーの作動	左右両方のパーキングブレーキをかけ、ブレーキレバーが保持されること	○	○
アクセルレバーの状態	引っかかりやもどり不良がないこと	○	○
モビリティの起動状態	・状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと ・異音がないこと	○	○

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検（1 年ごと）
ハンドルの状態	・がたつき・異音がないこと ・電源スイッチを ON にしてキーを認証させ、ハンドルを両端まで切って、状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと	○	○
警鐘器の作動	警告音が鳴ること	○	○
速度切りかえスイッチの作動	最大速度が切りかわること	○	○
ブレーキオーバーライドの作動	ブレーキレバーを引き、ブレーキインジケーターが表示されている状態で、アクセルレバーまたはバックボタンを押したとき、モビリティが発進しないこと	○	○
前照灯の作動	点灯すること	○	○
バックボタンの作動	警告ブザーが鳴りながら後退し、離すと停止すること	○	○
手動ブレーキの効き具合	手動ブレーキの効きが十分であること	○	
	6km/h で走行し、1.5m 以内で停止できること		○
加速の状態	・なめらかに加速すること ・走行時に突然止まらないこと ・走行時、状態表示パネルにエラーコードが表示されないこと	○	○
前輪（モーター）の状態	走行して異音がないこと	○	○
バッテリーの状態	外観の損傷・端子の変形・腐食・電解液の漏れがないこと		○

点検項目	判定基準	使用前点検	定期点検（1 年ごと）
ブレーキワイヤーの状態	ブレーキレバーを引き、ブレーキレバー側ワイヤーにほつれがないこと		○
パーキングブレーキの効き具合	10° の斜面でモビリティを停止させ、パーキングブレーキをかけ、モビリティの停止状態が保持されること		○
旋回速度抑制機能の作動	最大速度の設定が4km/hで、ハンドルをいっぱいに切った状態でアクセルレバーをいちばん奥まで操作しその場を旋回したとき、速度メーターの表示が 4/5 目盛り以下になり最高速にならないこと		○
傾斜検知センサー★ の作動	最大速度の設定が2km/hで、前輪を約 10cm 以上浮かせてアクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに「急斜面 危険」が表示されること		○
障害物検知機能★ の作動	最高速度3km/hで直進したとき、障害物から約2m の距離で状態表示パネルに警告マークが表示され、減速すること		○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

使用前点検のしかた

点検はこの項目に記載されている使用前点検のしかたに従って行い、使用前点検記録（→ P. 96）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

使用前点検時のご注意

安全にご使用いただくため、ご使用前に必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけられていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
  走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

点検項目と点検順序

点検順序に従って実施していただくと効率よく点検できます。

■ バッテリー関連

1 バッテリーの取り付け状態／取りはずし

▼

■ モビリティのまわり

2 ボデーパネルの状態

3 タイヤの状態

▼

■ ハンドルまわり

4 ブレーキレバーの引き残り代

5 パーキングブレーキレバーの作動

6 アクセルレバーの状態

▼

■ 起動して

7 モビリティの起動状態

8 ハンドルの状態

9 警鐘器の作動

10 速度切りかえスイッチの作動

11 ブレーキオーバーライドの作動

12 前照灯の作動

▼

■ 走行して

13 バックボタンの作動

14 手動ブレーキの効き具合

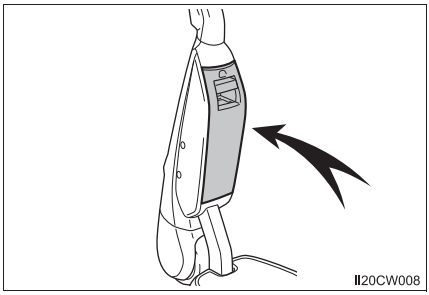
15 加速の状態／前輪（モーター）の状態

ご不明な点はお買い上げ販売店または取り扱い販売店にお問い合わせください。

使用前点検のしかた

点検は電源スイッチを OFF にしてから行ってください。

■ バッテリー関連



1 バッテリーの取り付け状態／取りはずし

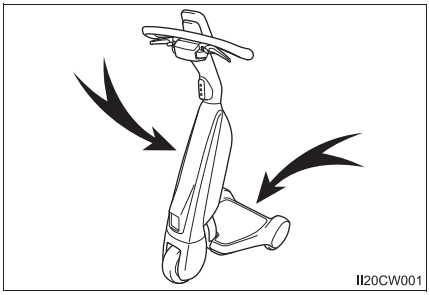
バッテリーを取り付ける（→ P. 56）

ロックがしっかりかかっていて、がたつきがないことを点検する

使用後はバッテリーを取りはずす（→ P. 55）

バッテリーレバーやツメに引っかかりがなく取りはずせることを点検する

■ モビリティのまわり



2 ボデーパネルの状態

ボデーパネルに著しい傷や亀裂がないか、全体を目視で点検する

知識

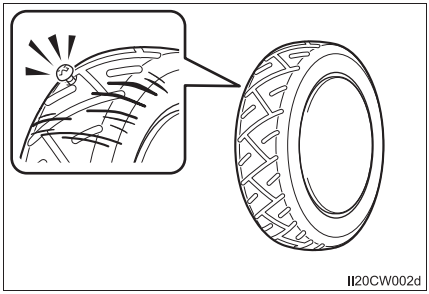
■ モビリティのお手入れ

→ P. 66

⚠ 警告

著しい傷や亀裂にさわるとけがをするおそれがあります。
ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

3 タイヤの状態



● タイヤの側面や、接地部全周に著しい傷や亀裂がないか点検する

● タイヤ全周にわたり釘・石・その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないか点検する

大きな傷や亀裂がある場合は、交換が必要です。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

● タイヤ接地面が異常に摩耗していないか点検する

異常に摩耗していたらタイヤの交換が必要です。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

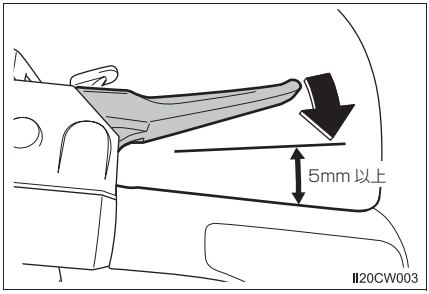
⚠ 警告

- タイヤ付近に手を挟まれないように注意してください。
- 異常に摩耗したタイヤで走行するとスリップ事故など思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ ハンドルまわり

4 ブレーキレバーの引き残り代

ブレーキレバーを引いてブレーキが作動した状態（モビリティを押しても動かない状態）で、ハンドルとブレーキレバーにすき間があるかを点検する（参考値：すき間 5mm 以上）



左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

ブレーキレバーを引く力が強すぎるとすき間がなくなることがあります。

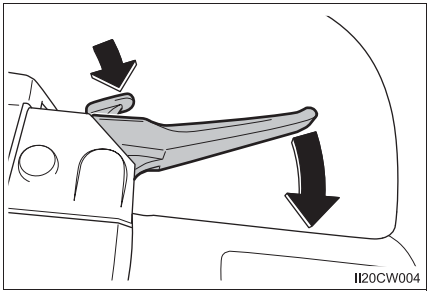
⚠ 警告

ブレーキワイヤーは消耗品です。ワイヤーの損傷や取り付けの緩みがあると、ブレーキの効き具合が悪くなって思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

5 パーキングブレーキレバーの作動

【ロック】

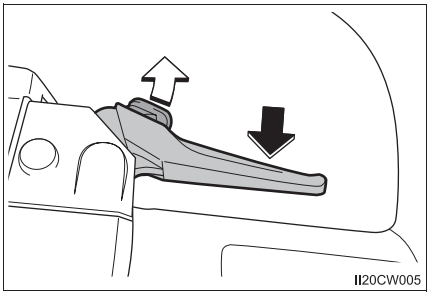
ブレーキレバーをしっかり握り、人差し指でパーキングブレーキレバーを手前に引いてパーキングブレーキがかかることを点検する



左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

【ロック解除】

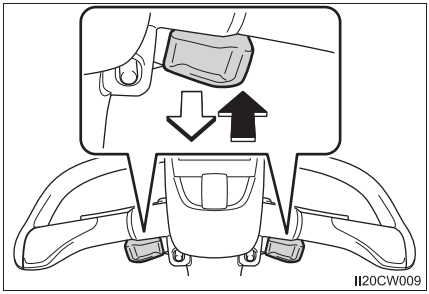
ブレーキレバーをしっかり握り、パーキングブレーキレバーがもとの位置にもどり、パーキングブレーキが解除されることを点検する



左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

6 アクセルレバーの状態

アクセルレバーをゆっくり押したとき／もどしたとき、引っかかりがないことや、停止位置までもどることを点検する

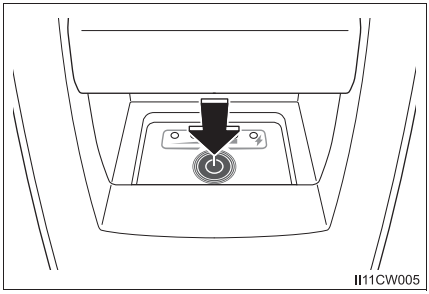


■ 起動して

7 モビリティの起動状態

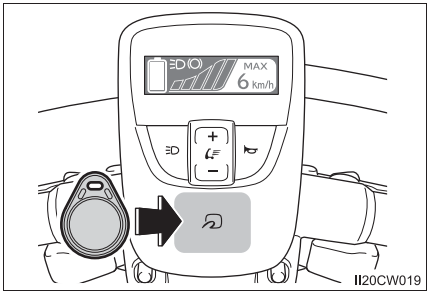
電源スイッチを ON にする

起動音が鳴り、状態表示パネルに認証待ちの表示がされます。



キーで認証エリアにふれてモビリティを起動し、異音がないか、モビリティの起動状態は良いかを点検する

状態表示パネルにエラーコード（→ P. 25）が表示されていないか確認します。



知識

- 電源スイッチをONにしたあと、キーで認証エリアにふれずに約1分が経過すると自動で電源スイッチが OFF になります。
- 電源スイッチが OFF になると、状態表示パネルに「OFF」が表示されます。

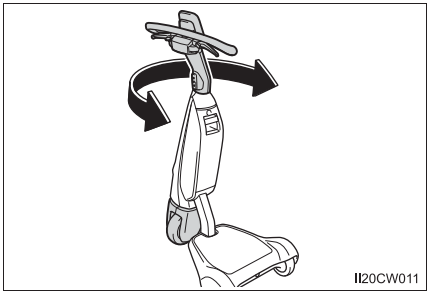
⚠ 注意

異音がある場合は、ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。

8 ハンドルの状態

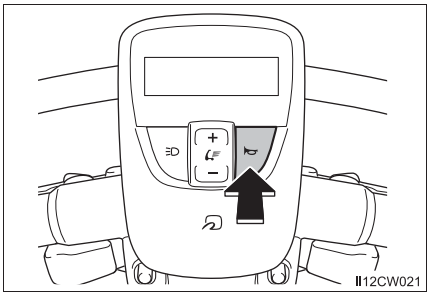
ハンドルを左右に止まるまでいっぱいに切ったときに、スムーズに動くか、異音がないか、緩みやがたつきがないか点検する

状態表示パネルにエラーコード（→ P. 25）が表示されないことを確認します。



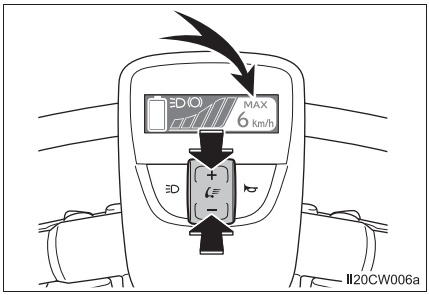
9 警鐘器の作動

警鐘スイッチを押して、警告音が鳴るか点検する



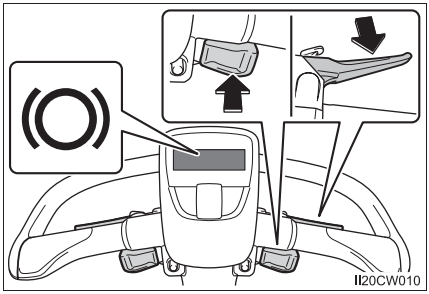
10 速度切りかえスイッチの作動

停車状態で速度切りかえスイッチの＋側／－側を押して、状態表示パネルの最大速度表示が切りかわることを点検する



11 ブレーキオーバーライドの作動

ブレーキレバーを引き、ブレーキインジケーターが表示されている状態で、アクセルレバーまたはバックボタンを押したとき、モビリティが発進しないことを点検する

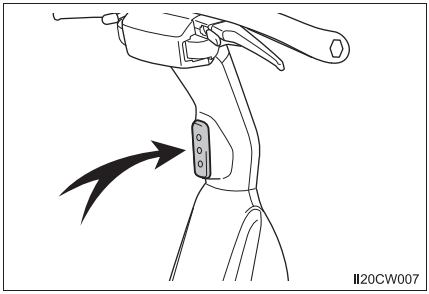


12 前照灯の作動

前照灯が点灯しているか目視で点検する

電源スイッチを ON にすると、自動で前照灯が点灯します。

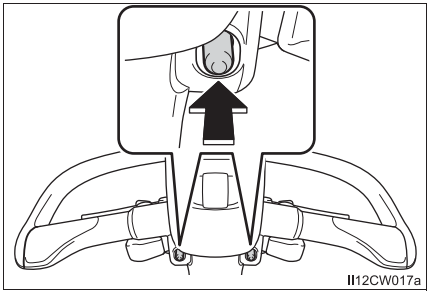
点灯時は、状態表示パネルに前照灯インジケーターが表示されます。



■ 走行して

13 バックボタンの作動

バックボタンを押し続け、警告ブザーが鳴りながら後退し、バックボタンを離すことで停止することを点検する



⚠ 警告

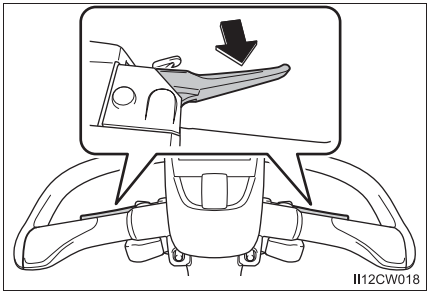
周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

14 手動ブレーキの効き具合

走行中にブレーキレバーを引き、ブレーキの効きが十分か点検する

手動ブレーキをかけると、状態表示パネルにブレーキインジケーターが表示されます。(→ P. 24)

左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。

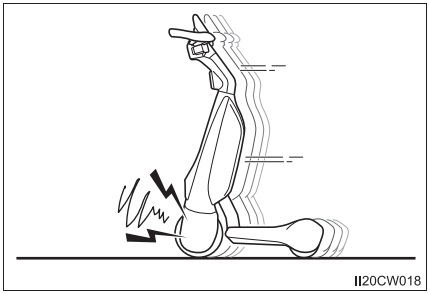


手動ブレーキの効き具合が悪い場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

15 加速の状態／前輪（モーター）の状態



- アクセルレバーを操作し、なめらかに加速するか、走行時に突然止まらないか点検する
- 走行時、異音がないか点検する
- 走行時、状態表示パネルにエラーコード（→ P. 25）が表示されていないかを点検する

  エラーコードがひんぱんに表示される場合は、異常が考えられます。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

⚠ 警告

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- 加速の状態が著しく悪い場合は、その状態で使用するとモビリティを損傷させるおそれがあります。ただちにお買い上げ販売店または取り扱い販売店で点検を受けてください。

使用前点検の記録

実施者（お客様等）が、「使用前点検記録」に記入します。

使用前点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△
調整	A
清掃	C

		使用前点検項目														
		バッテリーの取り付け状態／取りはずし	ボデーパネルの状態	タイヤの状態	ブレーキレバーの引き残り代	パーキングブレーキレバーの作動	アクセルレバーの状態	モビリティの起動状態	ハンドルの状態	警鐘器の作動	速度切りかえスイッチの作動	ブレーキオーバーライドの作動	前照灯の作動	バックボタンの作動	手動ブレーキの効き具合	加速の状態／前輪(モーター)の状態
実施日	年　月　日															
	年　月　日															
	年　月　日															
	年　月　日															
	年　月　日															
	年　月　日															
	年　月　日															

このページはコピーしてご利用ください。

定期点検のしかた

点検は、使用前点検のしかた（→ P. 86）と、この項目に記載されている定期点検のしかたに従って行い、定期点検記録（→ P. 102）に結果を記入します。

点検の結果、調整などの整備が必要な場合は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

なお、定期点検は、お買い上げ販売店または取り扱い販売店でも行えます。ぜひご利用ください。

定期点検時のご注意

安全にご使用いただくため、1 年ごとに必ず実施してください。

安全のためにまず読んでください

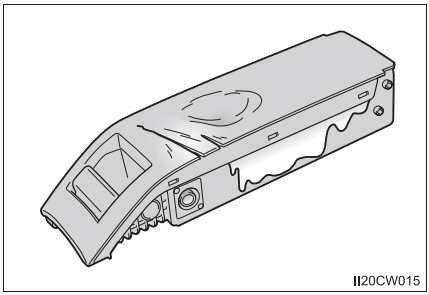
■ 点検の準備・場所

- 人や交通のさまたげになる場所では、絶対に行わないでください。周囲の安全を十分に確認しないと思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 傾斜した場所では行わないでください。モビリティが動きけがをするおそれがあります。
- パーキングブレーキをかけてから行ってください。パーキングブレーキがかけられていないとモビリティが動き思わぬ事故につながるおそれがあります。
  走行の際は、パーキングブレーキを解除してください。

定期点検のしかた

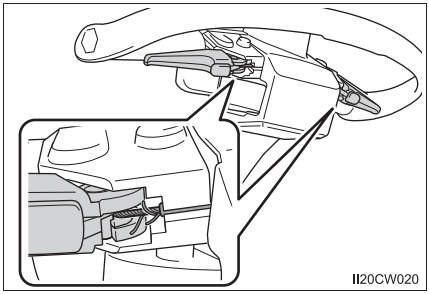
1 バッテリーの状態

外観の損傷・端子の変形・腐食･電解液の漏れがないことを点検する



2 ブレーキワイヤーの状態

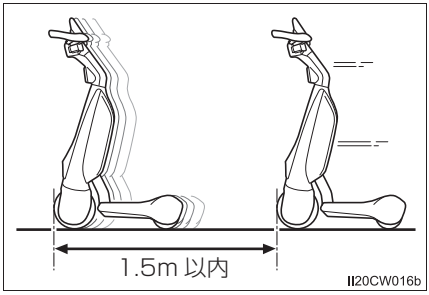
ブレーキレバーを引き、左右両方のブレーキレバー側ワイヤーにほつれがないことを点検する



3 手動ブレーキの効き具合

6km/h で走行し、1.5m 以内で停止できることを点検する

左右のブレーキレバーを、片方ずつ点検します。



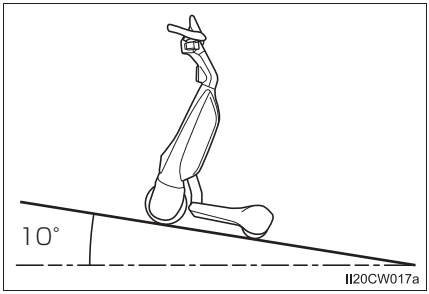
⚠ 警告

- ●周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- ●ハンドルを直進状態にして、正しい運転姿勢で点検してください。
- ●走行中にブレーキレバーを強く引くとモビリティが急停止して前のめりの姿勢になり、バランスを崩して転倒するおそれがあります。
  急ブレーキにならないようにブレーキレバーを引いてください。

4 パーキングブレーキの効き具合

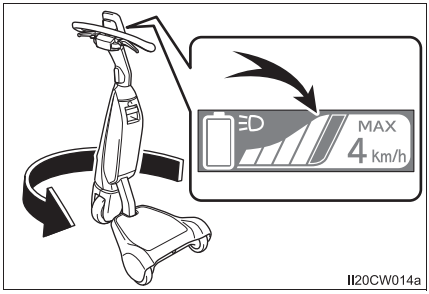
10° の斜面でモビリティを停止させ、パーキングブレーキをかけ、モビリティの停止状態が保持されることを点検する

左右のパーキングブレーキレバーを、片方ずつ点検します。



5 旋回速度抑制機能の作動

- 最大速度4km/hに設定する
- ハンドルをいっぱいに切った状態でアクセルレバーをいちばん奥まで操作しその場を旋回したとき、速度メーターの表示が 4/5 目盛り以下になり最高速にならないことを点検する



⚠ 警告

- 周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- ハンドルをしっかり握り、正しい運転姿勢で点検してください。
  バランスを崩し、転倒するおそれがあります。

6 傾斜検知センサー★ の作動

- 最大速度を2km/hに設定する
- 後輪に木片などで輪止めをする
- 輪止めを足で押さえながらハンドルを持ち、前輪を約10cm 以上浮かせる

- アクセルレバーを操作したとき、状態表示パネルに「急斜面　危険」が表示されることを確認する

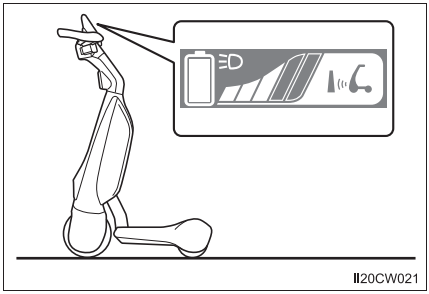
⚠ 警告

- ●周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。
- ●回転している前輪に巻き込まれないように注意してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

7 障害物検知機能★の作動

- 高さ 50cm、幅 30cm 以上の段ボール等の接触しても問題ない障害物を準備する
- 最高速度 3km/h で直進したとき、障害物から約 2m の距離で状態表示パネルに警告マークが表示され、減速することを確認する
  障害物に接触する前に停止してください。



⚠ 警告

●周囲の状況に十分注意して、安全な場所で点検してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

定期点検の記録

実施者（お客様または点検を実施した販売店等）が、「定期点検記録」に記入します。

定期点検記録

チェック記号

点検良好	レ
交換	×
修理	△
調整	A
清掃	C

実施日	年　月　日
実施者氏名	

定期点検項目																					
障害物検知機能★の作動	傾斜検知センサー★の作動	旋回速度抑制機能の作動	パーキングブレーキの効き具合	手動ブレーキの効き具合	ブレーキワイヤーの状態	バッテリーの状態	加速の状態／前輪（モーター）の状態	バックボタンの作動	前照灯の作動	ブレーキオーバーライドの作動	速度切りかえスイッチの作動	警鐘器の作動	ハンドルの状態	モビリティの起動状態	アクセルレバーの状態	パーキングブレーキレバーの作動	ブレーキレバーの引き残り代	タイヤの状態	ボデーパネルの状態	バッテリーの取り付け状態／取りはずし

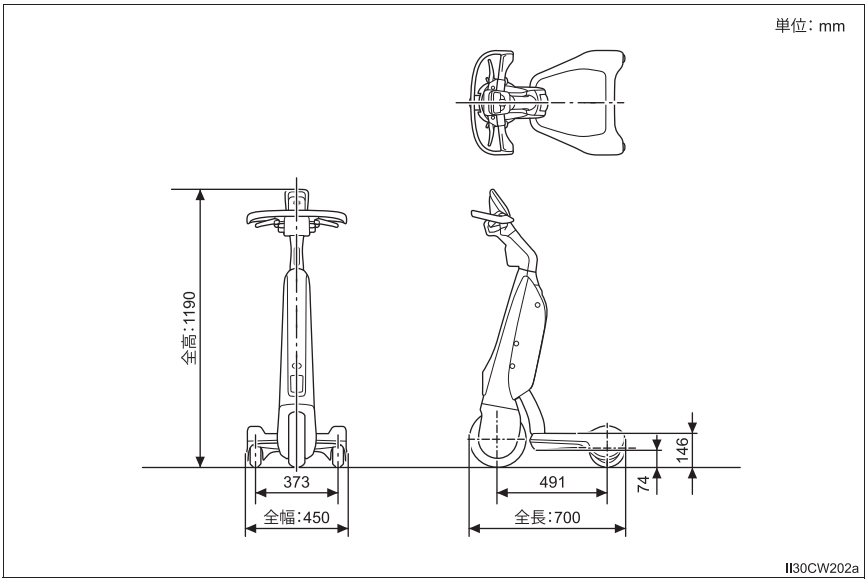
このページはコピーしてご利用ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

仕様 3

3. 仕様情報
寸法.....104
諸元.....105

寸法



⚠ 注意

移動用小型車として、公道走行可能な最大寸法（全長 1200 ㎜、全幅 700 ㎜、全高 1200 ㎜）が法令で定められています。改造などにより定められている最大寸法を超えるようなものを付けないでください。

諸元

モビリティ

		“Safety support”	C+walk T
製造事業者の形式		ZEV11-ABDHSS	ZEV11-ABDGSS
サイズ	全長	700mm	
	全幅	450mm	
	全高	1190mm	
質量（バッテリー含む）		29kg	
駆動モータ		DC24V　250W（前輪）×1 個（30 分定格出力） DC24V　350W（前輪）×1 個（最大出力）	
タイヤ	前輪	10×2.50 4PR　パンクレスタイヤ	
	後輪	6×2.0 4PR　パンクレスタイヤ	
駆動方式		前 1 輪直接駆動方式	
制動方式	前輪	手動内拡式ブレーキ＋モータ発電制御	
操舵方式		ハンドルによる前輪操舵	
制御方式		アクセルレバーによるマイコン無段階電子制御方式	
最高速度	前進	2,3,4,5,6km/h（切りかえ式）	
	後進	1km/h	
実用登降坂角度		6°	
連続走行距離 ※1		16km	
最小回転半径		0.59m	
段差乗越高さ		25mm	
溝乗越幅		100mm	
適応気温		0 ℃～ 40 ℃	
身長制限		140cm ～ 185cm	
使用者最大体重（積載物も含む） ※2		100 kg	

※1 気温 20 ℃、搭乗者の体重 70 kg、速度 6 km /h で平坦路を走行時、満充電から停止するまでの距離 / 時間を示します。搭乗者の体重や路面状況により変化します。

※2 搭乗者の体重・着衣および荷物の合計です。

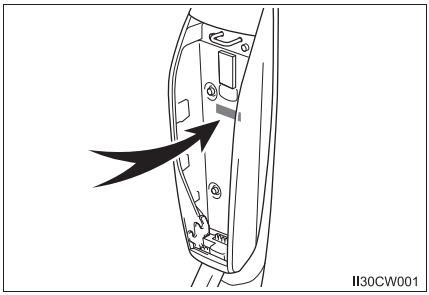
バッテリー

型式番号		BT-074B
公称電圧		25.2V
定格容量		13.2Ah（10.1Ah：5 時間率）
サイズ	高さ	394 ㎜
	幅	112 ㎜
	奥行	90 ㎜
充電器		DC28V　5A マイコン制御自動充電器（別置式）
充電時間 ※3		2.5 時間
充電時消費電力		170W

※3 バッテリーの温度などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

車台番号

バッテリー取り付け部にあります。



さくいん 4

4. さくいん
五十音順さくいん.....108

五十音順さくいん

あ

アクセルレバー.....5
悪路.....39

い

インジケーター.....6

う

植込み型心臓ペースメーカー.....14
運転姿勢.....34
運搬するとき.....68

え

エスカレーター.....48
エラーコード表示.....25

お

横断歩道で
　動けなくなったときは.....80
押し方.....68
お手入れするとき.....66
オドメーター.....24

か

外観.....4
改造.....14
階段.....48
画面表示.....25

き

キー認証エリア.....5
キーの故障.....22
キーの登録.....17
キーの登録を解除.....19
急斜面.....41
急斜面警告ブザー.....15
緊急ブレーキ.....51

け

警告表示.....15
傾斜.....41
警鐘器.....26
警鐘スイッチ.....5
携帯電話や通信機器を
　利用するとき.....36
警報ブザー.....15
減速機能.....49

こ

降車するとき.....33
航続距離.....105
後退時警告ブザー.....16, 50
後退時の速度.....50
後退のしかた.....50
交通機関や施設を利用するとき.....36
固縛.....69

さ

最高速度.....105
最小旋回半径.....105
サイズ.....106
最大速度.....24
最大速度を設定する.....36
最大登坂.....105
坂道.....41
坂道や傾斜に関するご注意.....41
サブキー.....17
サブキーを解除.....19
サブキーを個別に解除.....20
サブキーを紛失.....22
残量.....35

し

施設を利用するとき 36
自動減速機能 49
車台番号 106
斜面 41
斜面速度抑制ブザー 16
充電が始まらないとき 61
充電完了の確認方法 60
充電器 6, 54
充電コネクター 6
充電時間 57, 105
充電時消費電力 106
充電状態表示 LED 4, 6
充電する 59
充電するとき 58
充電に適した場所 57
充電方法 57
周辺検知センサー 4
修理 14
重量 105
手動ブレーキ（緊急ブレーキ） 51
障害物検知機能 26
障害物検知機能の作動条件 27
障害物検知ブザー 16
乗車するとき 31
乗車前の確認 30
状態表示パネル 5, 24
消費電力 106
使用前点検時のご注意 86
使用前点検の記録 96
使用前点検のしかた 86
使用前の点検 10
諸元 105
身長制限 105

す

ステップ 4
寸法 104

せ

セキュリティ機能 32
全高 105
前照灯 4, 26
前照灯インジケーター 24
前照灯スイッチ 5
前進のしかた 49
全長 105
全幅 105

そ

走行距離 35
走行中の注意 46
走行の前に 34
走行前警告ブザー 15
走行練習するとき 62
操作パネル 5
装備 26
速度 36
速度切りかえスイッチ 5
速度メーター 24

た

体重制限 105
正しい運転姿勢 34
段差 40
段差上限 105

ち

駐車のしかた 52

つ

通信機器を利用するとき 36

て

低温時の画面表示 25
定期点検時のご注意 97
定期点検の記録 102
定期点検のしかた 97
停止のしかた 51
ディスプレイ 24
手押しで移動するとき 64
適応気温 105
電源切り忘れ警告ブザー 15
点検記録（使用前点検） 96
点検記録（定期点検） 102
点検項目 83
点検項目（使用前点検） 87
点検順序（使用前点検） 87
電源スイッチ 4, 6
電源の ON/OFF 23
点検の準備・場所（使用前） 86
点検の準備・場所（定期点検） 97
点検の必要性 82
電源を入れる 23
電源を切る 23
天候 39
天候や悪路に関するご注意 39
電池残量表示 LED 4, 6
転倒したときは 78
電波がおよぼす影響 54

と

盗難 22
登録 17
登録できるキーの個数 22
登録を解除 19
道路や歩道に関するご注意 37
トリップメーター 24

に

認証エリア 5
認証操作 32
認証操作のセキュリティ機能 32

は

パーキングブレーキ 52
パーキングブレーキレバー 5
廃棄 70
廃棄するとき 70
バックボタン 5
バッテリー 4, 6, 106
バッテリー側充電コネクター 6
バッテリー交換 36
バッテリー残量 35
バッテリー残量警告ブザー 15
バッテリー残量の確認 35
バッテリー残量の目安 35
バッテリー残量表示 24
バッテリーの故障 54
バッテリーの充電方法 57
バッテリーの種類 35
バッテリーの特徴 35
バッテリーの取扱い 53
バッテリーの取付け / 取外し 55
バッテリーの廃棄 70
バッテリー保護警告ブザー 15
バッテリーレバー 4, 6
パネル 24
ハンドル 5
ハンドルプロテクター 5
販売店 120

ひ

ヒューズ 14

ふ

踏切 44
踏切で動けなくなったときは 79
踏切に関するご注意 44
プラグ 6
ブレーキインジケーター 24, 51
ブレーキ故障警告ブザー 15
ブレーキレバー 5
紛失 22

へ

ペースメーカー 14

ほ

保管するとき 67
保証しない事項 116
保証修理の受け方 115
保証書 115
保証登録書 120
保証登録書の再発行 118
保証について 114
保証の対象と期間 115
保証の内容 115
歩道に関するご注意 37

ま

マスターキー 17
マスターキーを紛失 22

み

溝 40

も

持ち上げ方 68
モビリティ情報 120
モビリティの押し方 68
モビリティの固縛 69
モビリティの持ち上げ方 68

ら

ラベル 7

り

リサイクル 70
リセット 24

ろ

路面状況が悪い場合 39

保証 5

5. 保証
保証について.....114
保証書.....115
保証登録書.....120

保証について

お買い上げいただきました製品は、トヨタの厳しい品質管理のもとで製造されたものですが、万一、材料上あるいは製造上の不具合がありました場合には、保証書に示す条件にしたがって無料で修理させていただきます。

保 証 書

1 保証の内容

この保証は、保証登録書に記載されたお客様に対して、トヨタ自動車株式会社（以下トヨタといいます）の出荷時のモビリティに組付けられている部品に、材料上または製造上の不具合が発生した場合に、保証書に示す期間と条件に従って、これを無料修理すること（以下、この無料修理を保証修理といいます）をお約束するものです。

保証修理は、部品の交換あるいは補修により行います。

なお、この際に取り外した不具合部品は、トヨタの所有となります。

2 保証修理の受け方

保証修理をお受けになる場合は、本書（保証登録書を含む）をご提示のうえお買い上げ販売店または取り扱い販売店に保証修理をお申しつけください。

本書（保証登録書を含む）をご提示されない時は、保証修理をお受けいたしかねます。

3 保証の対象と期間

保証対象	保証期間
下記を除く全部品 ● 消耗部品および油脂類 ● タイヤ ● ブレーキワイヤー ● ブレーキシュー ● トヨタの出荷後、トヨタ以外の者が装着・架装した部品・架装物	お買い上げ日から 1 年間

4 お客様にお守りいただく事項

お客様のモビリティが、本書にしたがった正しい使用・管理がなされている場合に、保証いたします。

守られていない場合は、保証修理をお断りすることがありますので、ご承知おきください。

5 保証しない事項

(1) 以下の現象等、不具合と認められないものは保証修理いたしません。

① 通常の使用損耗あるいは経年変化により発生する現象。
（消耗部品・油脂類の消耗・劣化等。
樹脂部品、塗装面の自然退色・劣化等）

② 製品の機能に影響がないことが一般に認められている現象等。（音、振動、操作フィーリング等）

(2) 以下の不具合は外的要因によるものであり、材料上または製造上の不具合ではないため、保証修理いたしません。

① 飛石、酸性雨、塩害、鳥糞、薬品、鉄粉、煤煙、降灰等の外部要因に起因する不具合。

② 地震、台風、水害等の天災ならびに火災、事故に起因する不具合。

(3) 以下の不具合は、正しい使用・管理等がなされていないことに起因するものであるため保証修理いたしません。

① 通常の注意で発見・処置できたにもかかわらず、放置したことにより拡大した不具合。

② 保守もしくは整備上の不備または間違いに起因する不具合。

③ ご使用の過程で発生したボデーおよび内外装部品の傷・凹み等の不具合。

④ トヨタの出荷後に、トヨタ以外の者が装着・架装した部品・架装物（保証修理時に交換部品として新たに装着された部品を除く）、およびトヨタ以外の者による補修（保証修理としてなされた補修を除く）・改造に起因する不具合。

⑤ 適切なトヨタ純正の消耗部品・定期交換部品あるいはトヨタが指定する油脂類以外の使用に起因する不具合。

⑥ 本書に示す取り扱い方法と異なる使用、不適切な保管、仕様の限度を超える過酷な使用に起因する不具合。

(4) 保証修理以外にトヨタが保証書に基づいて費用（例えば次のような費用）を負担することはいたしません。

① 消耗部品および油脂類の交換・補充費用。

② モビリティを使用できなかったことによる不便さおよび損失等。

③ トヨタ販売店およびトヨタ認定サービス工場以外での修理費用。

(5) バッテリーに関して、次に示すものは保証修理いたしません。
バッテリーの容量低下。（航続可能距離の減少）

(6) 保証登録書のお買い上げ日、お客様名、販売店名が確認できない場合は保証修理いたしません。

(7) 前記 3 に示す保証期間を満了したとき、または日本国外に持ち出された場合は保証修理いたしません。

6 保証登録書の再発行

保証登録書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

7 その他

この保証は、保証書に明示した保証期間・条件のもとに無料修理をお約束するものです。したがって保証期間経過後にお申し出のあった不具合修理は原則として有料です。ただしその不具合が使用損耗あるいは経年変化によるものではなく、その全部または一部が供給者側の責任に起因する場合は、責任の度合に応じ、適正な費用負担で修理いたしますのでお買い上げ販売店または取り扱い販売店にご相談ください。

愛知県豊田市トヨタ町1番地
トヨタ自動車株式会社
電話(0565)28-2121

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げ
いただきましたトヨタ販売店、または最寄りのトヨタ販売店へお問合せください。
また、リコール情報については、右記の QR コードからご確認ください。

販売店検索　リコール等情報

トヨタ自動車株式会社 お客様相談センター

所在地 〒450-8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

お電話によるお問い合わせ

全国共通・フリーコール
0800-700-7700

WEBページからのお問い合わせ

インターネットフォーム
によるお問い合わせ

チャットによる
お問い合わせ

手話通訳サービス
によるお問い合わせ

各お問い合わせサービスのご利用・受付時間など詳細につきましては右記の QR コードからご確認ください。
「個人情報保護方針」については、https://toyota.jp/privacy_statement/ にて掲載しております。

●QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

M 66013
01999-66013
II-2023年 3 月 13日
2023年 3 月 20日 初版
シーウォークティー